事務事業及び予算の執行実績

（令和４年度分「一部、令和５年度分を含む」）

静岡県立沼津特別支援学校

目　　次

1　事務事業に関すること
(1) 事務事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(2) 事務執行の根拠法令調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(3) 学校施設の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(4) 在籍生徒調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(5) 入学志願者及び入学者数調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(6) 卒業生の動向調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(7) 生徒の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2　職員に関すること
(1) 職員調 ・・
(2) 職員の年齢調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(3) 健康管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3　予算の総括に関すること
(1) 保管現金有高調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(2) 預金調 ・・
(3) 郵券等受払調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(4) 材料品受払調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(5) 委託料等歳出予算執行状況節別集計表（平成29年度分） ・・・・・・・・・・・・
(6) 委託料等歳出予算執行状況節別集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
4　補助金等に関すること
(1) 委託料に関する調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(2) 負担金支出調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
5　工事に関すること
(1) 建築工事調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
6　財産に関すること
(1) 公有財産調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(2) 事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調 ・・・・・・・・・・・・・
(3) 行政財産貸付・使用許可調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(4) 主要備品調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(5) 生産物受払調 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

□□□□□□□

事 務 事 業 の 概 要

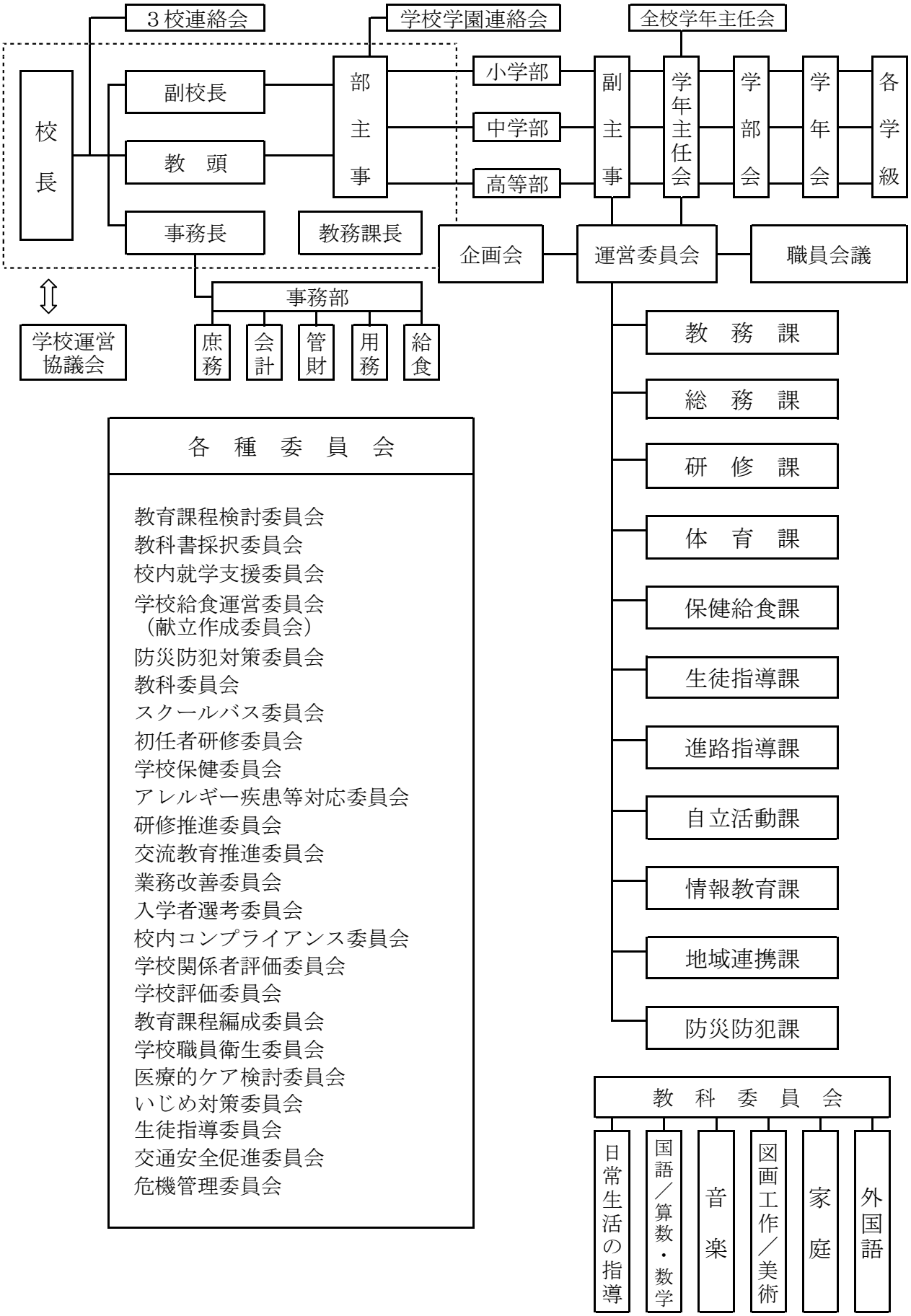
1　概　況

(1)　学校の沿革

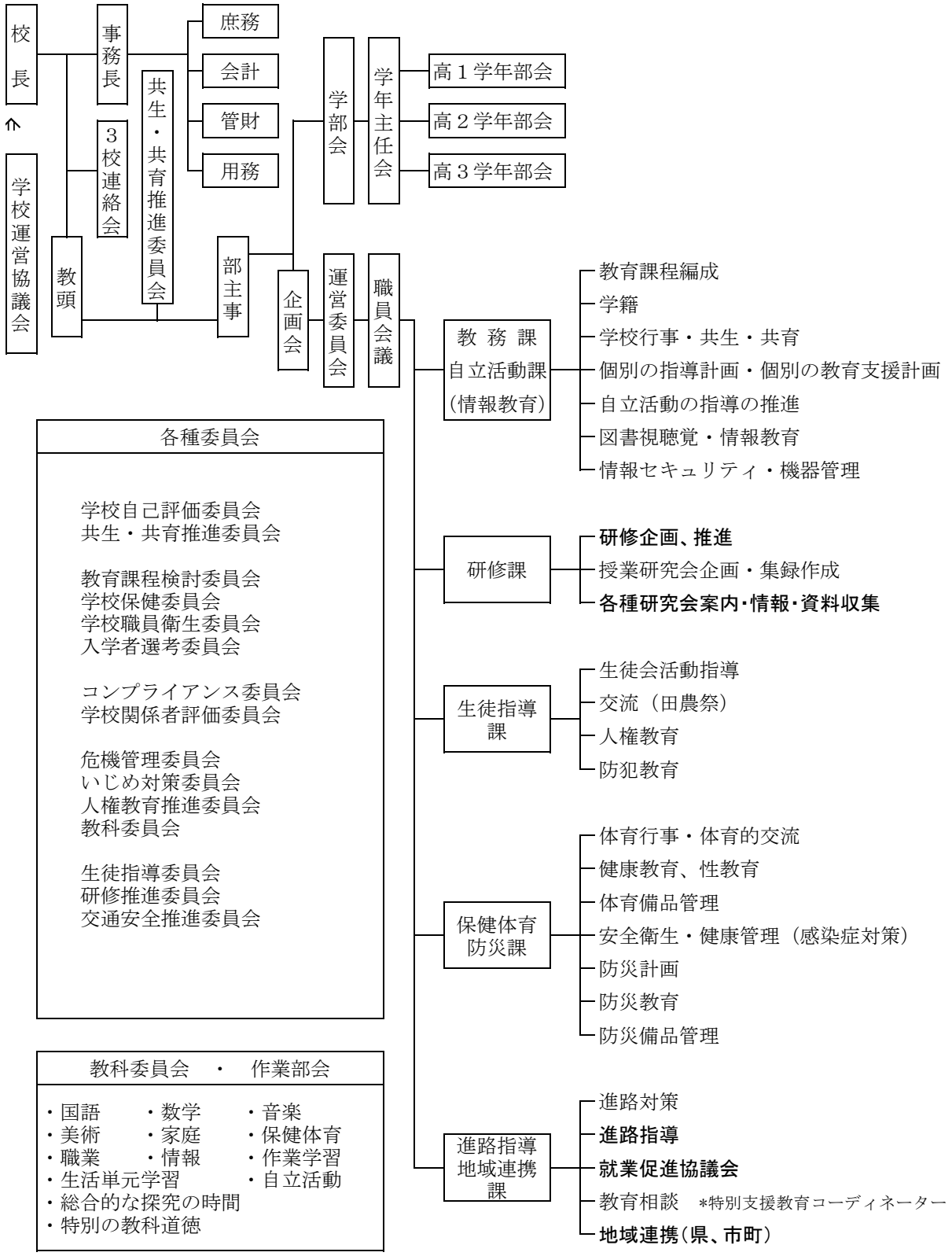
昭和53年 3月20日　静岡県東部地区新設養護学校の設置を２月県議会において議決
昭和53年 4月 1日　新設養護学校設立準備委員発令
昭和53年 8月 4日　第１期建築工事着工
昭和53年11月24日　静岡県立沼津養護学校と校名決定
昭和54年 3月17日　第１期建築工事竣工（管理棟、食堂）
昭和54年 4月10日　開校式、入学式挙行
小学部57人、中学部９人、訪問教育部92人入学
昭和55年 3月25日　第２期建築工事竣工（小学部棟）
昭和55年 4月 1日　三島市立坂小学校、錦田中学校見晴分校が静岡県に移管され、
静岡県立沼津養護学校見晴分教室となる。
昭和55年 4月 1日　富士市立大淵第二小学校、大淵中学校特殊学級が静岡県に移管され、静岡県立沼津養護学校ふじやま分教室となる。
昭和55年 4月 8日　見晴分教室開校式、入学式挙行
小学部22人、中学部16人入学
昭和55年 4月 9日　ふじやま分教室開校式、入学式挙行
小学部30人、中学部18人入学
昭和56年 3月20日　高等部の設置を２月県議会において議決
第１学年募集定員10人となる。
昭和56年 4月 1日　高等部開設
昭和57年 3月10日　高等部棟建築工事竣工
昭和58年 3月23日　体育館建築用地買収
昭和58年11月19日　校旗制定
昭和59年 2月29日　体育館建築工事竣工
昭和59年 3月10日　高等部第１回卒業式挙行
昭和60年 3月15日　高等部棟増築工事竣工
昭和60年 3月28日　プール竣工
平成 2年 3月31日　ふじやま分教室閉校
平成 9年 9月30日　中学部棟耐震工事完成
平成10年 4月 1日　高等部募集定員固定制から変動制となる。
平成10年 9月30日　小学部棟耐震工事完成
平成10年11月30日　給食棟下処理室竣工
平成13年 3月31日　見晴分教室休止となる。
平成15年 3月 1日　見晴分教室廃止となる。
平成15年 3月31日　訪問教育が東部養護学校へ指導変更となる。
平成15年 4月 1日　高等部第１学年に重複学級が認可される。
平成20年 4月 1日　静岡県立沼津特別支援学校と校名変更
平成21年 4月 7日　静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校開校式・入学式挙行
平成25年 4月 8日　静岡県立沼津特別支援学校愛鷹分校開校式・入学式挙行
平成29年 3月15日　木工陶芸室新築他工事竣工

(2)組織図

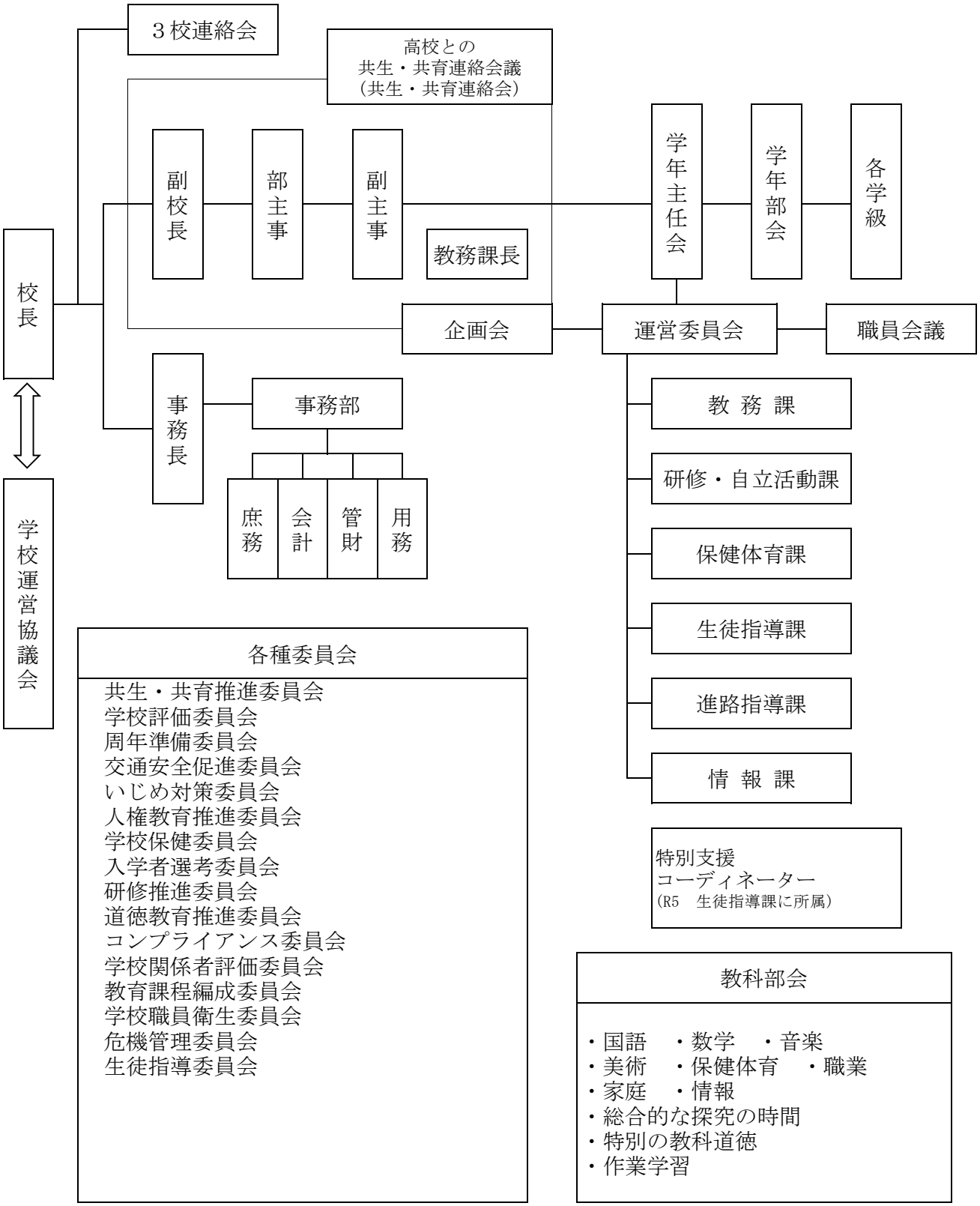
【本校】


３校連絡会
学校学園連絡会
全校学年主任会
校長
副校長
教　頭
事務長
部主事
小学部
中学部
高等部
副主事
学年主任会
学部会
学年会
各学級
教務課長
企画会
運営委員会
職員会議
学校運営協議会
事務部
庶務
会計
管財
用務
給食
教　務　課
総　務　課
研　修　課
体　育　課
保健給食課
生徒指導課
進路指導課
自立活動課
情報教育課
地域連携課
防災防犯課
各　種　委　員　会
教育課程検討委員会
教科書採択委員会
校内就学支援委員会
学校給食運営委員会
（献立作成委員会）
防災防犯対策委員会
教科委員会
スクールバス委員会
初任者研修委員会
学校保健委員会
アレルギー疾患等対応委員会
研修推進委員会
交流教育推進委員会
業務改善委員会
入学者選考委員会
校内コンプライアンス委員会
学校関係者評価委員会
学校評価委員会
教育課程編成委員会
学校職員衛生委員会
医療的ケア検討委員会
いじめ対策委員会
生徒指導委員会
交通安全促進委員会
危機管理委員会
教　科　委　員　会
日常生活の指導
国語／算数・数学
音楽
図画工作／美術
家庭
外国語

【伊豆田方分校】


校長
学校運営協議会
事務長
3校連絡会
教頭
共生・共育推進委員会
庶務
会計
管財
用務
部主事
学部会
学年主任会
高１学年部会
高２学年部会
高３学年部会
企画会
運営委員会
職員会議
教務課
自立活動課
(情報教育)
教育課程編成
学籍
学校行事・共生・共育
個別の指導計画・個別の教育支援計画
自立活動の指導の推進
図書視聴覚・情報教育
情報セキュリティ・機器管理
研修課
研修企画、推進
授業研究会企画・集録作成
各種研究会案内・情報・資料収集
生徒指導課
生徒会活動指導
交流（田農祭）
人権教育
防犯教育
保健体育防災課
体育行事・体育的交流
健康教育、性教育
体育備品管理
安全衛生・健康管理（感染症対策）
防災計画
防災教育
防災備品管理
進路指導地域連携課
進路対策
進路指導
就業促進協議会
教育相談　*特別支援教育コーディネーター
地域連携（県、市町）
各種委員会
学校自己評価委員会
共生・共育推進委員会
教育課程検討委員会
学校保健委員会
学校職員衛生委員会
入学者選考委員会
コンプライアンス委員会
学校関係者評価委員会
危機管理委員会
いじめ対策委員会
人権教育推進委員会
教科委員会
生徒指導委員会
研修推進委員会
交通安全推進委員会
教科委員会　・　作業部会
・国語　・数学　・音楽
・美術　・家庭　・保健体育
・職業　・情報　・作業学習
・生活単元学習　・自立活動
・総合的な探究の時間
・特別の教科道徳

【愛鷹分校】


３校連絡会
高校との
共生・共育連絡会議
（共生・共育連絡会）
副校長
部主事
副主事
教務課長
学年主任会
学年部会
各学級
校長
企画会
運営委員会
職員会議
事務長
事務部
庶務
会計
管財
用務
教 務 課
研修・自立活動課
保健体育課
生徒指導課
進路指導課
情 報 課
学校運営協議会
各種委員会
共生・共育推進委員会
学校評価委員会
周年準備委員会
交通安全促進委員会
いじめ対策委員会
人権教育推進委員会
学校保健委員会
入学者選考委員会
研修推進委員会
道徳教育推進委員会
コンプライアンス委員会
学校関係者評価委員会
教育課程編成委員会
学校職員衛生委員会
危機管理委員会
生徒指導委員会
特別支援
コーディネーター
（R5　生徒指導課に所属）
教科部会
・国語　・数学　・音楽
・美術　・保健体育　・職業
・家庭　・情報
・総合的な探究の時間
・特別の教科道徳
・作業学習

２　目指す学校像＜本校＞

(1) 教育目標

共に育てる 自立と輝き

－ 子どもの能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する －

「共に」とは学校、保護者、地域の人たちと共に、さらに児童生徒同士、そして児童生徒が自分自身を育て成長するという意味を持つ。 そして「自立」は児童生徒一人一人がそれぞれのステージでできることを増やしていくこと、人 や社会との関わりが広がることとし、「輝き」は自分の良いところを伸ばし、他者から認められ、 自信をもって生きる姿、生きる力を高めることと捉える。目指す学校像として、「安全」「専門」「連携」「チーム」の４つの柱を掲げ、自立と輝く力を育てる学校をめざす。

(2) 目標具現化の柱

ア 命を守る教育により、児童生徒が安全に安心して学習できる学校　（安　全）

イ 児童生徒の能力を最大限伸ばし、個に応じた指導及び支援ができる学校　（専　門）

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会を目指す学校　（連　携）

エ 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校　（チーム）

３　監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和４年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア　命を守る教育により、児童生徒が安全に安心して学習できる学校　（安全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
児童生徒の命と人権を守る取組の推進	・各自、人権にかかわる取り組み目標を設定し、目標を「達成できた」と答える教職員100％	前期末の人権チェックアンケートの集計で低かった項目を啓蒙ポスター等で周知を行った。「達成できた」98％	B	人権チェックアンケートの集計から全体で取り組む重点を策定する。年度当初の個人目標への意識を持続する策を講じる。
	・防災マニュアルを意識して防災教育を「実施できた」と答える教員90％以上	年度初めにマニュアルの説明会を開いて共通理解を図り、訓練の種類毎に掲示板でマニュアルのポイントを伝えた。「実施できた」100％	A	コロナ対応のため、全校での垂直避難や、外部講師による煙体験、不審者対応訓練が実施できていない。
	・アレルギー、医療的ケアに関する事故０件	毎月アレルギー表を読み合わせ給食安全に提供できるようにした。事故0件	B	対応の確認が余裕を持ってできるよう手順を検討する。
	・緊急体制訓練の実施　各学部２回	日程を学部間で調整し救命救急法講習会や緊急対応訓練を実施した。緊急体制訓練 各学部2回実施		ファイルの場所、記入方法、使用方法を周知し、動画を活用して訓練を行う。
	・避難経路となる廊下に、防災上問題となる保管物品０件	安全点検表にチェック項目を設けて毎月点検を行った。実習助手と連携して物品整理や校内美化に努めた。	B	職員作業を計画的に実施するとともに、ごみの分別について積極的に呼び掛ける。

	・体育施設での重大事故０件、体育施設、備品安全点検実施週１回	毎週末清掃時に体育施設 の安全点検（運動場・体育 館）を行った。安全点検毎週実施、重大事故0件	A	課外の教員にも体育施設の管理について意識し取り組めるよう呼びかけていく。

イ　児童生徒の能力を最大限伸ばし、個に応じた指導及び支援ができる学校　（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
入学から卒業後までのつながりを意識した指導の充実	・年間指導計画に関する、「12年間のつながり検討会」を受けて改善が図れたと答える教員90％以上	他の学年学部を意識した系　統性のある授業か見直す研修（12 年間のつながり検討会）を実施し、各学部の年間指導計画を1フォルダにまとめた。改善が図れた 89％	B	各学部の年間指導計画を確認しやすくするための共通フォルダの校内での周知をさらに徹底する。
	・「教員間で話し合って策定し、目標や評価について保護者と共有できた」と答える教員90％以上	県の標準様式等を踏まえ、より保護者や教員にとって分かりやすく使いやすいものとなるように、書式の検討を行った。「共有できた」100％	B	書式の検討が進んだが、学部間で共通化したマニュアルの活用について呼び掛けを増やしたい。
	・研究授業または公開研究会を通して、児童生徒が成長を実感できるための支援を考えることができた教員90%以上	目標設定から学習評価までの一連の流れを体系化した授業づくりのパッケージを使い、資質・能力の伸長を図る学校研修を推進した。 「成長を実感できる支援を考えることができた」100％	B	書式の煩雑さを改善し、取組の定着を図る。全員での授業公開や中心授業方式など形態の選択をする。
	・アプリやICT機器を活用した授業を実施し、その内容を職員会議で情報共有　各学部年1回	ICT 機器の学習支援やアプリの紹介をするとともに、授業での ICT 機器の使用方法を公開し情報共有を図った。 職員会議での情報共有１回　各学部 1回	A	校内でのアプリ利用申請のシステム構築を進める。1人１アカウントの取得と活用体制を整備する。
	・外部講師を招いた授業やスポーツや芸術の実演に触れる機会年１回以上	小学部1回(東レアローズ体験) 中学部2回(アスルクラロサッカー教室・書道家実演・交流) 高等部1回(アフリカ民族楽器)	A	感染症対策をしながら外部人材や地域資源を活用した自然、文化、スポーツの体験的学習を実施できた。

ウ　保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会を目指す学校　（連携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
地域や関係機関とのつながりを大切にした切れ目ない指導と支援の充実	・共同学習の方法（直接・間接）を工夫し、学年１回以上 ・交流校との連携を図り、希望者の実施90％以上	（共同学習） 小学部各学年2～4回 中学部7回 高等部各学年1回 （交流希望者の実施） 小学部 95％、中学部 100％	A	学校間交流や交流せ貴校との交流について、意義や成果を相手校と共有できるための協議や事前学習を充実させたい。
	・学校だより年６回発行 ・沼特ギャラリー（HP上での作品展示）年3回以上更新	学校だより発行　年6回 沼特ギャラリーの更新年3回	A	作品を計画的に集める。校外での作品展示状況について、様子を伝える広報をする。
	・月間のホームページ閲覧者数を児童生徒数以上	計画的なホームページの更新を推奨し、支援した。 月間閲覧数　平均 1,350人	A	年度当初に肖像権等の確認業務をスムーズに実施する。
	・校内外における、支援が必要な生徒に対する支援会議の実施と対応 100％	会議の必要が生じたときには、その都度、的確に対応できた。 支援会議の実施・対応 100％	A	学区内の特別支援学級や域内の高等学校等との連携を深めたい。
	・「保護者や関係機関と情報共有ができた」と答える、支援会議に参加した教員 90％	支援会議に参加した教員と確実に情報の共有ができた。 「情報共有ができた」100％	A	進路説明会・学習会の開催方法や内容を検討し、保護者への情報提供を充実させる。

エ　教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校　（チーム）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
働きがいのある学校にするための業務改善の推進	・会議の焦点化に努めるとともに、「深い話をすることができた」と答える教職員 90％以上	学年主任、分掌課長を中心に、焦点化や深い話し合いを意識した会議を推進した。 「深い話ができた」83％	B	限られた時間の中での会議の持ち方について一層工夫しながら、焦点化、深まりを追究し、働きがいに繋げたい。
	・教職員への情報伝達100％	工事や修繕の工程をはじめ、会計・給与などの事務関係の情報を発信できた。	A	引き続き迅速な情報提供により、業務の滞りない実施に寄与する。

(2) 令和５年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア　人権尊重の意識に基づいた、児童生徒が安全に安心して学習できる学校　（安　全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
人権に配慮した指導の徹底	・職員が、相手の人権を尊重した対応を日々心掛けている。 ・保護者が、児童生徒の人権が尊重されていると感じている。	・児童生徒への「さん」付けが定着してきており元気な挨拶ができている。保護者から児童生徒に寄り添ったかかわり方に一定の評価をいただいた。	A	・校内研修やさん付けの励行で人権尊重の意識と実践を高めることができた。 ・同僚間のやり取りで配慮が足りないと指摘があったためさらに徹底したい。

	・校内が整理整頓されている。	・限られた収納容量に合わせて物品を精選しながら、安全な学習環境を保つことができた。	B	・整理整頓は進んだが業務改善につながる収納場所の確保が課題である。
命を守る、未然防止と緊急対応の、実践力の向上	・感染状況を鑑み必要な対策のもと教育活動が実施されている。	・地域・校内の感染状況等の把握に努め、国・県の通知や必要な対策を保健給食課を中心に確認・検討して対応した。	B	・校内における感染拡大は防ぐことができた。対策の徹底には職員の更なる意思統一が必要である。
	・職員と児童生徒は、発災、緊急時の対応を理解し、行動できる。	・防災訓練や緊急体制訓練を通し、どういった行動をとるべきかが確認でき、訓練実施後のマニュアル等の見直しを進めることができた。	B	・コロナ禍でできなかった体験的な防災訓練を重ねることができた。避難後の対応など様々な状況を想定した訓練も必要である。
	・日々、安全な行動が自分からとれるような指導を行っている。	・繰り返しの取り組みによって、避難行動がわかり、教師の少ない声掛けで児童生徒が素早く行動できるようになってきている。	A	・日々の生活の中で、児童生徒が自ら安全な行動を考える、体験するなどの機会を設定していきたい。

イ　深い児童生徒理解に基づいた、キャリアを踏まえた指導及び支援ができる学校（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
多面的で深い児童生徒理解	・職員が、児童生徒が主体性を発揮できるように工夫している。	・児童生徒が主体性を発揮できるような授業づくりを行うことで、自分から参加し、考えて動く姿が多く見られるようになった。	B	・全体研修・学部研修により授業改善が進んだ。日常生活や授業において、児童生徒に考えさせる場面を多く設けるなど更に追究を深めたい。
	・児童生徒が、「授業が楽しい」「できるようになったことが増えた」と実感している。	・授業の中で児童生徒の笑顔が増えたり賞賛を受け喜んだりする姿を多く見ることができた。	A	・児童生徒が関心を持てる学習や、成功体験を積み自信と意欲を高める学習を工夫する実践を積むことができた。
つながりのある支援と指導の充実	・他学年、他学部を意識した系統性のある授業を実践している。	・「12 年間のつながり検討会」により、学習の系統性を考え各学部・学年で指導計画や単元の内容について話し合いを深めることができた。	B	・前の学年からのつながりを考え、年間指導計画の進捗状況についての確認や検討が進んだ。引き続き、いつ何を学ぶかを整理し、系統性の見える化を進めたい。
	・保護者が、その時期にその授業を行う意義の説明を受け、理解している	・面談や学年だより、日々の連絡帳で授業内容や意義について伝えることができている。 ・参観懇談会や保護者学習会の来校時に説明をした。	A	・授業の意義や児童生徒の表れを積極的に保護者と共有することができた。個別学習に関しても担当教員から直接説明する機会を設ける等したい。
	・一人一台端末を活用した授業を行っている。	・授業での端末の活用方法について実践事例等の共有が進んだ。まだ頻度は多くないが、調べ学習など、ICTを用いた授業で一人一台端末の活用が増えている。	B	・授業へのICT導入が広がり、児童生徒が一人一台端末を活用する機会が増えてきた。端末の保管場所を教室の近くにする等使いやすい環境整備をさらに進めたい。

ウ　地域や関係諸機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を目指す学校　（連　携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
児童生徒の自立と輝きに向けた地域や関係機関との協働の充実	・学校運営協議会委員から具体的な支援を得ている。	・地域の大人との交流、農作物の収穫体験、地域サークルのハンドベルコンサート、地域の文化資源訪問や祭りへの作業製品出店等を実施し、児童生徒が地域の方々と関わり体験を広げることができた。	B	・協力を受けて新たに始められた連携授業や校外学習など、地域の方を巻き込んだ学習が実現できた。学校運営協議会の話し合いや恩恵について、職員や保護者が具体的に把握できる紹介を充実させたい。
	・ケース会議後、今後の方針と役割分担が明確になり実践されている。	・児童生徒の実態把握から目標、評価まで関係機関と連携して検討し見通しや方針を確認、共有することができた。	A	・必要に応じてケース会議を開催し、今後の対応や目標について円滑に共有することが当たり前に行えるようになってきた。今後も関係機関との綿密な連携をしていきたい。
地域とのつながりの強化	・各交流の成果を、保護者や地域が理解している。	・交流だよりや学年だより、学校だよりを通して交流の様子について伝えている。交流籍校交流については参加希望をとる時に説明している。	B	・各交流について機会を捉えて保護者への説明や紹介を行うことができた。地域に向けた紹介の機会を増やしていきたい。
	・職員が、様々な場面で本校の教育について紹介している。	・学年だよりにQRコードを載せ学校HPの閲覧につながっている。また、図工美術作品や作業製品の展示、地域の祭り参加等を実施した。	B	・学年だよりやHPを利用した紹介は内容、頻度とも充実してきた。その他の方法・媒体等、効果的なPRについての研修機会を設定したい。
	・地域資源を活用した学習を行い、地域から評価いただいている。	・地域の方との交流で「また来たい」との感想が地域の方々の中に広がり、新規の参加につながっている。	B	・新たに本校と関わった方を増やし、理解を広げることができた。地域貢献という視点から交流を捉え実施したい。

エ　チームとしてのやりがいに基づいた、効率よく迅速に、業務を遂行できる学校（チーム）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
働きがいのある職場環境の充実	・教職員が、協働することでより良い成果を挙げたり課題が解決できたりしたと感じている。	・学部会等で児童生徒の情報を共有し、課題に対し他学年から助言を受けたり外部専門家を活用したり対応することができた。分掌間の協力による取組も増えた。	B	・校内で学年学部や分掌課を越えた協働による成果が見られた一方、一部の職員に業務負担が偏らない工夫が必要である。
	・職員が、効率的な会議や業務遂行を意識して行っている。	・諸会議において、事前の資料配布や議題の精選、時間内に終える等の工夫を実践することができた。	B	・会議を効率的に、論点を絞って行う意識が定着してきた。今後も継続しながら話の深まりや活性化等も図りたい。
	・職員が事務室からの伝達に必ず目を通している。	・掲示板が効率的に活用されている。個別に必要な連絡内容はメールを併用することで確実に伝えられている。	B	・事務室からの伝達が確実に伝わるようになってきた。掲示板の見出しの工夫や気付いた職員による周囲への声掛け等により伝達を向上させたい。

	・職員が可能な範囲での改善がなされたと感じている。	・担当職員からの安全点検報告や修繕依頼に事務室の対応が迅速にできている。	B	・設備面での環境の改善は随時対応することができた。業務面での改善の要望に応えることが課題である。

4　監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和５年度	「学年を超えた集団での活動」（小学部） ・小学部集会（複学年での活動） 小学部集会（複学年での活動）として、全学年で「１年生となかよくなろう会」「６年生ありがとうの会」を開催するほか、１年生と６年生、２年生と５年生、３年生と４年生の組み合わせで年間２回のペア学年集会を行った。 ・クラブ活動（４・５・６年の縦割り活動） ・クラブ活動（４・５・６年の縦割り活動）では、毎週火曜日の午後に、散歩、スポーツ、音楽・ダンス、図工、レクリエーション、読書・読み聞かせの６つのクラブに分かれて活動を行った。 「地域を活用した学習」 ・種まき教室（４・５・６年） ・さつまいも掘り交流（１・２・３年） ・地域交流（全学年）	「学年を超えた集団での活動」（小学部） ・異年齢での活動で、自分の役割を果たす、人の役に立つ、友達に喜んでもらう、といった経験を積むことができた。 ・多様な状況の児童に適した活動内容、進行方法などを更に工夫する必要がある。 ・普段とは違う集団とともに活動することで、集団行動の約束を守ることができた、経験のある児童が率先して活動し、活躍の場ができた、余暇を広げることができた、といった成果があった。 ・『種まき教室』では、JAふじ伊豆の方を講師に招き、冬野菜の種まきを行った。JAの方から、種まき方法の説明を聞いたり、プランターへの土入れや種まきを一緒に行ったりすることで、より活動に興味をもち、野菜作りへの知識を得たり地域の方との関りを深めたりすることができた。 ・さつまいも掘り交流では、１～３年生に２名ずつの地域の方に入っていただき、さつまいも掘りやさつまいもに関するゲームや読み聞かせの活動を行った。いつもとは違う地域の方との関わりにより、人との関りの幅を広げたり、より楽しんでさつまいも堀りに取り組んだりする姿が見られた。 ・地域交流は、本校小学部の伝統として、長年取り組んでいる活動である。令和５年度も、原地区の方々に各学年に２～３名ずつ入っていただき、ゲームやダンスなどで交流を行った。毎年参加してくださっている地域の方からは、「児童の成長が感じられてうれしかった。」「また来年度も参加したい。」という声も聞こえ、本校児童が地域の方との関りから刺激をもらうだけではなく、双方にとって理解を深められるとてもよい機会となった。より本校に通う児童についての理解啓発を進めていけるよう、今後も継続して取り組んでいきたい。

	「交流及び共同学習」（小学部） ・学校間交流（年２回） ・交流籍校交流（希望者）	・沼津市立原東小学校との学校間交流は、小学部の６年間で継続して実施している。６年間の見通しの中で児童同士の関わりや活動内容が段階的に積み上げられるよう、各学年の押さえを明らかにして取り組んでいる。今年度は、お互いの学校での交流を各学年２回行い、それぞれ友達と関りを持つことができた。毎年交流を行うことで児童同士がお互いの個性やそれぞれの存在の大切さを感じる交流となっている。来年度も各学年で年２回の実施を予定している。 ・交流籍校交流は、年々希望者が増えている。 ・普段とは違った集団の中での経験は、児童にとって新鮮で楽しい活動となることが多い。５年度は１人１～３回、相手校と日程を調整し行った。児童も保護者も教員も実施することの良さを感じている。交流を通して、関りを深めることに加え、本校児童の得意な学び方や有効な支援方法を広く周囲に発信することで、本校や本校に通う児童に関する理解啓発を進めていきたい。
	進路懇談会（小学部） ・学年別懇談会 保護者学習会 ・先輩保護者の話を聞く会 ・保護者学習会②	・６年間の計画の中で、保護者への進路指導を進めている。２年生は、高学年までの見通しを持つように３～６年生の見学と３年生からの生活について小学部主事から伝えた。３～５年生は、高等部卒業生の進路先と生活、進路決定までの流れについて進路指導課長から伝えた。４年生は、高等部の見学と高等部の生活について高等部主事が説明した。６年生はすぐ間近に迫った中学部の見学と中学部の生活について中学部主事から話を聞く機会を設けている。１年生から６年生までの保護者は、これまで経験や知識に大きな差があるため、その時の保護者の状況、ニーズに応じた進路指導や情報提供に留意している。 ・保護者学習会では、先輩保護者から小・中・高等部の違いや高等部卒業までの保護者の思いを直接聞く『先輩保護者の話を聞く会』と小グループに分かれて雑談を行う『保護者学習会②』を行った。『先輩保護者の話を聞く会』では、本校卒業生の保護者２名から、今までの子育てに関する様々な話や、進路決定に向けてのアドバイスなどの話を聞き、これからの毎日に対して前向きになれる力を得ることができた。『保護者学習会①』では、家庭で困っていることや休日の過ごし方など様々な情報交換を行うことができた。明日からの生活に関わるヒントを得られたり、同じ悩みを共有することで明日への活力を得られたりすることができた。
	「地域を活用した学習」（中学部） ・愛鷹広域公園の花壇作り（年３回） ・原地区センターの花壇作り（年２回） ・福祉施設への空き缶の搬入（エコ美化委員会）（年２回）	・園芸班の生徒が愛鷹公園や原地区センターの花壇作りを行った。作業学習で身に付けた技能を地域のためにいかし、地域の方に感謝されたことで、大きな達成感と作業への意欲を高めることができた。 ・委員会活動で潰した空き缶を、近くの福祉事業所に納品した。感謝状をいただいたことで、生徒の自己有用感につながった。

	「交流」（中学部） ・保育園交流（年２回）	・１回目は生徒が作ったおもちゃを届けた。２回目は園児が楽しめることを考え、ゲームを企画し、一緒に活動した。小さい子に優しくする経験や喜んでもらえたことが、生徒たちの喜びにつながった。
	「作業学習」（高等部） ・製品開発の工夫と売り上げ意識の向上	・授業を単元化することで、目的意識をもって製品作りに取り組むことができている。個に応じた活動を設定しながら、製品の更なる質の向上や新製品の開発、売れ筋商品の分析等に取り組んでいる。
	「地域で活きる作業学習」（高等部） ・バザーでの作業製品販売 ・協力店舗への納品 ・地域を意識した活動の創造	・協力店舗（洋菓子店、茶屋、喫茶店）への納品、地域の方に向けた野菜の販売、近隣の商業施設での販売を行った。納品や販売経験を重ねることで、目的意識をもって製品作りに取り組むことができている。 ・地域のスーパーに使用済みの牛乳パックを納品しエコ活動に取り組んでいる作業班や、原団地内施設の清掃に取り組んでいる作業班もある。
	「生徒指導」（高等部） ・登下校時の指導 登下校時の指導を定期的に実施し、安全教育の充実を図った。 ・情報モラル指導 携帯電話の使用時間、インターネットやSNSの使用方法の指導を行った。 ・消費者出前講座（全学年）	・生徒の実態が様々で、電車・バス等の乗車マナーでの課題があり、多様化している。今後も学期始めや年度途中でのマナー指導、乗車指導、災害時の対応学習等を継続していく必要がある。 ・携帯電話を持つ生徒の増加に伴い、インターネット、SNSの利用も増えている。SNSの利用について課題があり、トラブルに巻き込まれることも考えられ、生徒が情報モラルについて学び、節度ある利用ができるよう、外部講師を呼んで授業を行った。引き続き指導を行っていく必要がある。 ・成年年齢の引き下げに伴い、消費者被害から身を守るため、契約や金融、若者に多い消費者トラブルとその対処法などを専門知識を持つ講師から３年間段階的に学んでいる。高校生の消費者被害の増加は懸念されており、今後も継続的して実施していきたい。
	「心の相談室　ポストの設置」（高等部） 「リラックス教室の定期開催」（高等部）	・保健室前にポストを設置し、生徒が悩みを打ち明けやすい環境作りに努めた。今後も、障害認知を深め、組織として生徒指導に対応できるように計画的に実施していきたい。 ・ロングホームルームの授業で、ゆったりした音楽を聴いたり、アロマの匂いを嗅いだりしたことで、リラックスできる方法を知ることができた。ストレスを抱えている生徒が増えているため、今後も継続していきたい。
	「交流及び共同学習」（高等部） ・近隣高等学校　　高１・高３　年１回 ・保育園児との交流　高２　年２回	・高等部１年生は飛龍高校と部活動交流を行った。高等部３年生は、沼津工業高校にて体験授業を受けた。各高校の生徒が優しく丁寧に接してくれたため、本校の生徒も安心して体験・交流をすることができた。 ・高等部２年生はあしたか保育園の園児と交流を行った。会の計画、準備、運営を生徒が行っている。１回目は保育園に行き、２回目は園児を本校に招いている。

	「進路指導」（高等部） 　高等部の進路指導で生徒の希望に沿った進路指導を行った。また、保護者への啓発活動の充実を図った。 ・高１　施設見学　職場体験（２日間） ・高２　入所施設見学 　　職場実習（年２回） ・高３　ハローワーク見学 　　職場実習（年２回） ・全学年　ビジネスマナー講座 ・保護者向け進路懇談会　各学年２回	・高等部では本人の希望に沿った進路実現100%を目標として進路指導を行っている。 ・就労希望者、福祉事業所利用希望者共に、実習を重ねる中で、ほぼ希望に沿った進路に進むことができた。福祉事業所（特に生活介護事業）の定員の関係や生徒の家庭環境や特性（強度行動障害、てんかん、他害など）で、進路決定が難航するケースがあるため、市町福祉担当課や福祉事業所との連携を重視している。

5　教職員について

(1) 異動状況

区分	本務職員								
	校　長	副校長	教　頭	事務長	教　諭	養護教諭	事務職員	栄養教諭	計A
転出者		△1			△13	△1	△1		△16
退職者					△4				△4
転入者		1			13	1			15
新任者					3		1		4
差引増減	0	0	0	0	△1	0	0	0	△1

区分	臨時・非常勤職員						合　計 A＋B
	教諭（任）	教諭（臨）	栄養士（臨）	事務職員（臨）	会計年度任用職員	計B	
転出者	△4					△4	△20
退職者	△3	△4		△1	△12	△18	△22
転入者							15
新任者		4		1	7	12	14
差引増減	△7	0	0	0	△5	△12	△13

(2) 現員数

本務職員								
校　長	副校長	教　頭	事務長	教　諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	計A
1	1	1	1	95	2	1	3	105

臨時・非常勤職員					合　計 A＋B
教諭（任）	教諭（臨）	栄養士（臨）	会計年度任用職員	計B	
9	5	1	13	28	133

(3) 健康管理について

ア　健康管理の推進

教職員健康診断は、婦人科検診を含め対象者全員が受診した。再検査・精密検査を勧められた者に対しては、定期的なチェックや声掛けも行ったことで、結果特休者等を除いた全ての対象者が受診を終え、何らかの指示をいただくことができた。また継続治療や経過観察となっている教職員の受診状況等の把握にも努めた。

学校職員衛生委員会では、「職員一人ひとりが働きやすいと思える職場環境を作る」を目指し、毎月各学部の代表から職員の様子などについて聴取。問題となるような内容が聴かれた際は、改善策を皆で考え、実行に向けて動くことができた。

教職員からの健康相談については、その都度産業医に相談し助言をいただいている。教職員一人ひとりが心身の健康を主体的に捉え、日常生活においても適切な食生活や運動を意識していけるよう、今後も支援を継続していく。

(4) 教職員の研修について

特別支援学校教職員としての専門性を深めるために、研修・研究活動の充実を図り、その成果を日常の教育活動に生かすように努めている。

学校全体のテーマを「児童生徒が自分の良さや成長を実感できる授業づくり　～見取とフィードバックの循環を通して～」とし、それに基づいて各学部がそれぞれのテーマを設定し、取り組んでいる。

ア　各学部の研修テーマ

【小学部】「児童の『できた！』『わかった！』があふれる授業づくり～児童の気持ちに応じた支援を工夫して～」

【中学部】「働く喜びを感じる授業づくり～できたことを実感するフィードバックの　工夫～」

【高等部】「生徒がやりがいを感じる授業づくり～自ら考え動くためのフィードバックの工夫～」

イ　研修内容

令和５年度からの研修では、できたことや自分の成長を感じる姿を引き出すことに重点を置いた昨年度までの研修を踏まえ、テーマをより具体的に絞って取り組むこととした。研修テーマを「児童生徒が自分の良さや成長を実感できる授業づくり～見取りとフィードバックの循環～」とし、児童生徒が「授業が楽しい」「できるようになったことが増えた」と達成感や成就感を味わう姿を目指し、その姿を引き出すための支援について研修を深めていくことにした。児童生徒が自分の良さや成長を実感するためには、個に応じた「分かる」「できる」支援を充実させ、児童生徒が主体となり、夢中になって学習に取り組めることや、学習を重ねていく中で、できるようになったことを児童生徒が自ら実感できることが大切であると考えた。そこで、令和５年度は、児童生徒が主体的に取り組むための支援や、できたことを実感できる支援を追究することにした。

小学部は各学年、中学部・高等部は各作業班で、事例児童生徒を一人以上決め、事例児童生徒の指導の検討を中心にしながら研修の取組を進めた。研修の取組に適切な助言が得られるよう、各学部１名ずつ他校から助言者を招聘し、授業参観と指導助言を通して学部研修や研修に基づく授業づくりの充実を図った。

校内研修のほか、職員の専門性向上のため、外部講師に依頼し以下の学習会を行った。

月　日	学習会のテーマ	講　　師
５月10日 ５月15日	「救命法講習会」 （心肺蘇生法、AED使用）	駿東伊豆救急ワークステーション
８月４日	「防災アプリを活用した防災学習」 （防災防犯課主管）	静岡県東部地域局 危険管理課 主査　植田城治氏
８月４日	「子どもの見方、捉え方研修」 （地域連携課主管）	常葉大学 教育学部 学校教育課程 講師　野村和代氏
８月29日	「アサーション研修」	日本アサーション協会代表 平木典子氏
11月15日	「不審者対応訓練」 （防災防犯課主管）	沼津警察署　生活安全課

校外の研修については、特別支援教育課及び県総合教育センターの主催する各種研修会のほか、県特別支援学校（知的障害）研究協議会、県内の各学校の研究大会に参加（オンラインを含む）し、教員の資質向上を図った。帰校後、内容を学部等で報告し、研修の成果を教員間で共有するようにした。

ウ　成　果

自分の良さや成長の実感につながる有効な支援を追究するに当たり、児童生徒が「どのような思いで、どう考え、そう行動したのか」「目標の実現にむけて、どのように学習に取り組み、変容したのか」等、児童生徒の姿から内面を見取り、授業改善を重ねていった。また、「どのようにして、一人一人の『できた』を実感できる場面を作っていくか」を明確にして授業の計画を立てたことで、児童生徒ができたことを自分自身で実感できる活動や場面を設定したり、教師が児童生徒の学びを見取り、タイミングや方法を考えながら働きかけたりする場面が増えた。これらの支援により、児童生徒が自ら考え行動する姿や「もっと、やりたい」と意欲を高める姿、「自分の力でできた」と達成感を感じる姿、「次は、これに挑戦したい」と次の目標を持つ姿等、自分の良さや成長を実感する姿を引き出すことができた。

エ　課　題

職員アンケートから、「目標や学習活動について、一人一人を取り上げて考えてみると、教師と児童生徒の想いにズレが生じている場面があった。」「児童生徒が主体的に学習に取り組むために、児童生徒の想いや願い、思考に沿って課題や学習活動を考えていきたい。」等の意見が寄せられた。次年度は、「子ども主体の授業づくり」をより一層追究し、一人一人が願いを抱き、やりたいことや本気で取り組みたいことに夢中になって取り組める授業づくりを目指す。

また、次年度は、２年間の研修の成果を発表する機会として、第25回公開授業研究会がある。今年度の成果をもとに、次年度の研修にさらに磨きをかけ、２年間の研修の集大成を発表すると共に、外部参会者を交えて、各学部の取組や授業づくりについて協議を行い、今後の実践の糧としたい。

6　防災対策について

児童生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう、防災防犯体制を整え、児童生徒の発達段階に応じた防災教育を行った。

また、児童生徒の在校時における南海トラフ地震に関連する情報（臨時）の発表や地震・津波を想定した訓練を３回、火災の発生に備えての訓練を２回、年計５回の避難訓練とスクールバス避難訓練を３回実施した。その他、教職員対象の大地震発生時シミュレーション訓練（緊急メール配信訓練含む）と消火訓練を各１回、保護者対象の災害伝言ダイヤル 171 訓練を２回、緊急体制訓練を学部ごとに１回実施した。外部講師を招聘し、防災講話、ＡＥＤ心肺蘇生法講座を実施した。不審者対応訓練は、外部講師を招聘し、実際を想定した訓練を実施した。

(1) 避難訓練・不審者対応訓練

月　日	訓　練　名	主　な　内　容
４月27日	第１回火災避難訓練	調理室から出火を想定した避難訓練 新型コロナウイルス感染症の感染対策として、学部ごとに時間をずらし、避難経路を確認しながら運動場に避難をした。
５月11日 ９月６日 １月11日	スクールバス避難訓練	スクールバス乗車時の地震発生への対応(児童生徒の身の守り方、介助員と運転手の動き等)を確認した。登校便２回及び下校便１回実施
５月30日	第１回地震避難訓練	地震の後、津波警報が発令されたことを想定し、各学部とも、各教室で初期避難行動をした。その後、２次避難として３階への垂直避難は行った。トランシーバーを使った点呼、報告を実施した。
６月22日	＜教職員対象＞ 大地震発生時シミュレーション訓練	各係に分かれ、簡易トイレの設置、発電機の動作確認、物資運搬搬出等を実施した。 保護者にコクーメール配信、開封確認し、保護者は運動場での引き渡しを想定した。
８月４日	防災講話	＜教職員＞ 東部地域局危機管理課から講師を招聘し、タブレット端末を使った防災講話を行った。
９月１日	総合防災訓練（第２回地震避難訓練、非常食試食会）	大規模地震災害発生を想定した地震避難訓練、寝袋体験、映像による防災学習、非常食試食会を実施した。
10月５日	第２回火災避難訓練	給食室からの出火を想定した避難訓練を実施した。消防署と連携しての通報訓練、消防車見学、消火訓練、スモーク体験を実施した。
６月15日 10月15日	＜保護者対象＞ 災害伝言ダイヤル 171 再生訓練 災害伝言ダイヤル 171 録音訓練	大規模地震発生時を想定し、災害伝言ダイヤルで児童生徒の安否と学校周辺の被害情報を保護者に伝える訓練と家族で決めた電話番号

		に録音をしてもらう訓練を実施した。
11月15日	＜教職員対象＞ 不審者対応訓練	不審者侵入時の組織的な対応（不審者対応、児童生徒の安全確保、校内放送、警察への連絡）を確認するシミュレーション訓練を実施した。
９月26日 11月28日	消火訓練　（高等部２年） 起震車体験（高等部２年）	水消火器を使った初期消火を体験し、校内の消火器、消火栓の場所についても確認した。起震車で小規模から大規模の地震の揺れを体験した。
12月20日	第３回地震避難訓練	児童生徒、職員に予告なしの抜き打ち訓練を実施した。教室での１次避難の後、２次避難として、全校児童生徒一斉に３階への垂直避難を行た。

(2) 施設・設備の整備、保守、保安

ア　消防計画・電気工作物・自動ドアは、専門業者に委託して定期的に保守点検を実施した。

イ　月１回の安全点検、半年に１回の安全総合点検を実施し、児童生徒が安全に活動できるように努めた。

(3) 学校警備

退庁時の戸締り、火気点検を徹底し、夜間は警備会社の機械警備により継続した警備体制を図り、災害事故発生防止に努めた。

7　学校開放について

地域におけるスポーツ活動等に対し運動場等学校施設を開放している。

事業名	施設名	期　　間	日数	利用者	利用者負担金
県立学校 施設開放	体育館	５年４月１日から ６年３月31日まで	15 日	延 425 人	６，１１０円 電気料（実費）
	運動場		５日	延 200 人	

２　目指す学校像＜伊豆田方分校＞

(1) 教育目標

共に育てる 自立と輝き

－ 子どもの能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する －

「共に」とは学校、保護者、地域の人たちと共に、さらに児童生徒同士、そして児童生徒が自分自身を育て成長するという意味を持つ。 そして「自立」は児童生徒一人一人がそれぞれのステージでできることを増やしていくこと、人 や社会との関わりが広がることとし、「輝き」は自分の良いところを伸ばし、他者から認められ、 自信をもって生きる姿、生きる力を高めることと捉える。目指す学校像として、「安全」「専門」「連携」「チーム」の４つの柱を掲げ、自立と輝く力を育てる学校をめざす。

(2) 目標具現化の柱

ア 人権尊重の意識に基づいた、生徒が安全に安心して学習できる学校　（安　全）

イ 深い生徒理解に基づいた、キャリアを踏まえた指導及び支援ができる学校　（専　門）

ウ 地域と関係機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を目指す学校　（連　携）

エ チームとしてのやりがいに基づいた、効率よく迅速に、業務を遂行できる学校(チーム)

年度別学校経営の取組等

ア　命を守る教育により、生徒が安全に安心して学習できる学校（安全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
生徒の命と人権を守る取組の推進	・在宅時、通学途上も含め、発災時に自分で判断して行動したいと答える生徒 80%以上 ・在宅時、通学途上も含め、発災時の避難行動等について、家族内で確認したり、防災意識をもつようになった保護者 80%以上 ・在宅時、通学途上も含め、発災時の具体的な行動力に結びつける防災教育を行なっている教員 80%以上	・生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 85% ・保護者アンケートにおいて「できた」と回答した保護者 78% ・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	B	・発災時における家庭や地域での対応にまで学習機会を広げることができた。 ・災害に対して体験的に自分事として取り組める授業がなされている。 ・３年間の積み上げにより防災ハンドブックが完成することも良い。 ・生徒の学習をより実践に活かせるよう、保護者や田農と連携した訓練を計画・実施したい。
	・「自分の良さが分かり、自分の意見や考えをもって行動する力がついてきた。」と答える生徒と保護者 80%以上 ・生徒への働きかけの前に、「あなたはどう思う？」を意識してやりとりをしている教員 80%以上	・生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 73% ・保護者アンケートにおいて「できた」と回答した保護者 100% ・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	B	・先ずは生徒の話を聞くことを心掛けた。学習以外でも良い部分を褒め、普段から生徒との関係作りが浸透しつつある。 ・気になる生徒についても、学年を超えて情報交換をしたり指導したりしたい。 ・生徒に寄り添いつつ、成長をサポートしていくことのできる教師集団であり続けたい。 ・今後は、心理的安定を図るための関わり方の徹底を図りたい。

				・誰もが快適な分かりやすい学校を目指し、言葉掛けや掲示物などの情報を整理したり、デジタルデータの管理も行いたい。
	・保健指導」や「性の指導」等で学んだことを、生活の中で生かしていこうと考える生徒 80%以上 ・生活の中で生かす力につなげる視点から保健指導や性の指導等を実践した教員 80%以上	・生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 85% ・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 79%	B	・養護教諭の協力により、指導が充実した。家庭や地域生活にも返していきたい。 ・性の多様性を大切にし、多様な視点からの性教育を行いたい。性犯罪などに巻き込まれないよう定期的に指導したい。 ・性や生理、清潔、などの指導の必要性を強く感じる。年間計画を活かした取り組みができると良い。 ・懇談会などを活用した家庭への情報提供を行いたい。 ・福祉・行政等の協力を得ながらの安全指導にも広げたい。 ・昨年度から引き続き、勉強会を開催し、道徳の捉え方や評価の仕方などを学ぶことができた。 ・授業は今年からなのでまだ試行錯誤の段階だと思われる。
	・特別な教科「道徳」での学びを生活の中で生かしていこうとする生徒 80%以上 ・特別な教科「道徳」での学習評価を生徒理解に生かしている教員 80%以上	・生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 80% ・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 82%	A	・ICTを活用して、生徒の本音にせまったり意見を拾い上げたりして、リアリティのある等身大の学びができている。

イ　生徒の能力を最大限伸ばし、個に応じた指導及び支援ができる学校（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
入学から卒業後までのつながりを意識した指導の充実	・学び、考えることが楽しいと答える生徒 80%以上 ・生徒の考える姿を引き出す授業力を高めたと感じる教員 80%以上	・生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 93% ・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・研修を通して生徒主体の授業作りを学ぶことができた。更に教育課程全般で、考える姿を求めていきたい。 ・生徒が成果を出すまでじっくり待つ姿勢も大切にしていきたい。 ・作業学習では、一日通して働く経験を積めるように、週に１日や月に２回程度、終日作業学習の日があっても良い。教育課程を再考したい。 ・地域に出やすい作業学習

				の整備を進めていきたい。
	・作業学習や職業等、学校で身に付けた力を職場実習で発揮していると答える生徒 80%以上 ・「就労しながら豊かに生活する将来の姿」を見据えた目標を設定し、働きかけや学びのフィードバックについての支援を意識している教員 80%以上	・生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 93% ・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・進路指導課が各学年の意向に寄り添い、丁寧な対応をしている。卒業後の生活をイメージして、本人を含め家庭の協力を得ながら進路指導を進めていきたい。 ・状況が許せば、職業やその他教科でも縦割りの学習の機会を増やしたい。教えたり教えられたり、生徒の学びが多いと考える。 ・１日を通して作業学習を実施する日があると良い ・保護者への進路情報提供を充実させ、本人や家庭がより主体的に進路選択ができるようにしたい。
	・自らの情報活用能力が向上したと答える生徒及び教員 80%以上 ・教育実践全般の成果について、ＨＰ等での発信、各教員年１回以上	・生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 90% ・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・各種儀式や集会、通常授業においてICT機器を活用した。 ・導入した機器やアプリの最大限の活用がなされている。 ・アプリ・プロジェクターと板書を併用するなど、デジタルとアナログを併せて活用ができた。 ・機器が増えた分、セキュリティをしっかり守るように周知徹底をしていきたい。

ウ　保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会を目指す学校（連携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
地域や関係機関とのつながりを大切にした切れ目のない指導と支援の充実	・田方農業高校との共同学習、行事に魅力を感じる生徒 80%以上 ・将来につながるコミュニケーション力の育成の場として、田農生との共生・共育の良さを生かす働きかけをしている教員 80%以上	・生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 88% ・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・地域にもっと出ていく活動があるとよい。生徒同士がもう少し自分たちで交流を進めていけると、より良いと考える。 ・同年代をはじめ、いろいろな立場の方々とのコミュニケーション機会が充実していた。 ・製品の在庫がある時や野菜が豊富に収穫できた時など、臨時で販売できる機会を設けていけるとよい。（田農や伊豆仁田駅等） ・地域の人材バンクも活用していけると良い。 ・地域の行事やお祭りなどに参加し、作業製品の販売がもう少しできると良い。

				・今後も地域資源や外部組織との協働活動を充実させたい。
	・必要性のある生徒に対するケース会議等の実施等 100% ・校内（保護者を含む）外の人材活用や連携によって得られた情報が、教育活動に生かされていると感じる教員 80%以上	・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	B	・生徒指導案件など、個別に対応がなされている。予期しない問題に後手に回ることもあるが、対応は丁寧で徹底的に行われている。 ・出身中学校や保護者、地区行政等との情報共有と予防的指導を充実させていきたい。
	・伊豆の国特別支援学校との情報連絡会 年２回 ・地区（小・中・高）の特別支援教育の体制づくりに向けた発信　年５回		A	・中学校からの進路相談や卒業後の就業促進会義など、必要な時期に十分な情報共有ができた。
	・函南町等、地域との共同活動や情報発信（函南町役場やゲートウェイとの連携）年 12 回以上		A	・必要に応じて保護者や福祉課とも連携をとり、適宜、関係者会議を実施することができた。

エ　教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校（チーム）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
働きがいのある学校にするための業務改善の推進	・掲示板の活用等で必要な情報提供を図ったり、共有のために自ら情報収集を図ったりしている教員 80%以上 ・教材等データや業務に関わるノウハウを共有することで、業務の改善につなげたと感じる教員 80%以上	・教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・掲示板やCOCOOを活用し、印刷や配布、回収、集計の時間や手間が改善した。紛失やタイムラグがないことも良い。 ・サーバーの階層やフォルダが整理され情報が集まった。データ活用が進んだ。 ・サーバー内の教材庫の活用をしたい。授業案や教材、資料を整理すると学年の縦のつながりもできるのではないか ・出席簿と取得単位表とをリンクさせるなど、データ処理システムの改善が進んだ。 ・初任者研修では、教職員がそれぞれの専門知識を生かした研修を企画し、学び合えた ・PTA 活動も視野に入れデジタル情報の更なる活用を探る。 ・教材研究や生徒の情報共有に充てる時間の捻出と有効活用を図りたい。
	・本校事務との連携	・教員アンケートにお	A	・本校事務室は、限られた

	が図れていると感じる教員 80% ・本校事務からの直接情報提供の場 年６回以上	いて「できた」と回答した教員 100%		予算の中で分校職員の意向を大切に最大限の対応をしている。 ・校外学習費用やコロナ対策での購入品をはじめ本校事務室とその都度相談をしながら適切な予算執行に努めている。

(2) 令和５年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア 人権尊重の意識に基づいた、生徒が安全に安心して学習できる学校 （安 全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
地域での安全につながる防災教育	・生徒が、発災時の具体的な行動を理解している。 ・職員が、発災・緊急時にとるべき行動を把握している。	・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　94.7% 保護者 92% 生徒　99% ・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100%	A	・田農との合同防災訓練やジュニア防災士養成講座の実施など、災害を自分事として捉え体験的に取り組める授業が充実していた。 ・避難訓練では、形式的な避難行動に留まらず、各教員が担当場所からの経路の安全性を見直し、一次避難地を新たに設定するなど改善が行えた。 ・家庭での備蓄や家具固定、居住地区における避難場所などのプリントを持ち帰り、保護者とも情報共有ができた。 ・防災学習は大切。これまでの教材を共有し、授業に活用しながら継続していきたい。
誰もが安心して通える学校	・職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 ・校内の情報や物品がシンプルに機能的に整理されている。	・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100% 保護者　96.6% 生徒　91% ・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　73.7%	B	・養護教諭の尽力により、健康面での指導が充実した。引き続き、家庭や地域生活にも返し連携を図りたい。 ・スクールサポーターから定期的に情報を得ることで、安全指導も充実してきている。 ・多くの生徒が学校を楽しみにしているが、人間関係や生活リズムの面で悩みを抱える生徒もいる。本人や家庭に寄り添い、背景を十分に理解した上で、安心できる校内体制作りや地域における最適な居場所へのつなぎを継続したい。 ・教室や廊下の掲示物などの情報整理、デジタルデータの管理が少しずつ進んできている。最適化できるよう、引き続き環境整備を行いたい。

				・ＰＣ室や相談室、作業棟などの使用を工夫して空間の有効活用や構造化をより進められると良い。

イ　深い生徒理解に基づいた、キャリアを踏まえた指導及び支援ができる学校　（専 門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
多面的な生徒理解と生徒自身の自己理解への支援	・作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が主体となって活躍している。	・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　89.5% 保護者　100% 生徒　99%	B	・ICTの活用により、生徒の多様な表現方法を拾い上げ、意見の吸い上げを行うことができた。更なる活用を進めたい。 ・生徒の情報について、学年を超えて日常的に情報交換を行うことで、学年を越えた理解や指導に繋がった。 ・研修を通して、生徒自身が課題を発見することやその解決に向けた主体的な学びについて、教師側の意識が高まった。 ・作業学習では、終日作業が始まり、一日を通して働く経験を積めるようになり、他団体との協働場面も広がった。今後、協働機会の飽和状態による準備不足が心配されるため、交流機会の精選について検討していきたい。
個に応じた適切な進路決定	・生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ・保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協力している。	・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100% 保護者 96.6% 生徒　89% ・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100% 保護者 96%	B	・キャリアパスポートを作成し活用することで、生活や学習、実習などを繋げて考えることができ、生徒主体の学びに向かっている。更なる有効活用を進めていきたい。 ・金銭を含めた自己管理など、生活面での支援や指導も、情報提供を含めて更に充実させていきたい。 ・保護者への進路情報提供を充実させることで、本人を含めて家庭の協力を得ながら進路指導を進めることができた。 ・１年生の短期実習など、最適な実施時期を検討していきたい。また、保護者向けの進路説明会の設定など、家庭と連携するための工夫を引き続き進めていきたい。

ウ　地域と関係機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を目指す学校　（連 携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導	・職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 ・保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、支援している。	・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100% 保護者 100% ・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100% 保護者 92%	A	・出身中学校や保護者、地区行政等との綿密な情報共有を行うことができた。 ・必要に応じて保護者や市町の福祉課とも連携をとり、適宜、関係者会議を実施することができた。 ・中学校からの進路相談や卒業後の就業促進会議など、必要な時期に十分な情報共有ができた。 ・生徒指導案件などは、時期的なものなどから予測して、予防的な指導も進めることができた。
生徒の自立と輝きに向けた共生・共育	・生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、外部人材との交流学習に積極的に参加している。 ・学校運営協議会から具体的な支援を得ている。	・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100% 保護者 93.3% 生徒　 91% ・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100%	B	・陶芸や調理などの技術指導に加え、防災指導や主権者教育など、幅広く外部人材から知識を得る機会があった。 ・エスウェルフェスやトマト祭など地域の行事や祭などに参加し、作業製品の販売などで地域貢献することができた。 ・同年代をはじめ、いろいろな立場の方々とのコミュニケーション機会が充実していた。 ・交流の回数が増え、量に対する質の確保が難しくなってきているため、それぞれの交流の意義を確認し、精選していきたい。 ・学校運営協議会から、学校見学の時にその場で直接アドバイスをいただき、すぐに指導に活かすことができた。 ・学校運営協議会との連携により、外部団体との有意義な協働場面が増えた。

エ　チームとしてのやりがいに基づいた、効率よく迅速に、業務を遂行できる学校(チーム)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
働きがいのある職場	・職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。	・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　94.8%	A	・本校事務室から、掲示板などを通して書類の書き方や期限などの丁寧な通知があり、前もって計画的に事務手続きの準備を進めることができた。

	・職員が、時数管理や行事計画の工夫などにより、生徒と向き合う時間や教材研究の時間、情報共有の時間を確保している。	・アンケートにおいて「できた」と回答した 教員　100%		・掲示板やCOCOOの活用が進み、印刷や配布、アンケートの回収、集計などの業務改善がますます進んでいる。 ・サーバーの階層やフォルダが整理され、データ活用が進んだ。写真データの引越などもあったが、情報課がスムースに進め、業務の滞りがなかった。 ・ＰＴＡ活動にデジタル機器を取り入れることで、仕事の手間が減り、データ作成などの分担もしやすくなった。 ・一部の保護者の中にはＰＴＡ活動を負担に感じている方もいる。家庭環境や時代の変化等に合わせて、活動の更なる精選を検討したい。 ・学年内や作業班内での調整が進み、教材研究や生徒の情報共有に充てる時間が以前よりもてるようになった。 ・放課後の会議や部活動指導など、運営の改善に向けて引き続き案を練っていきたい。

4　監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和5年度	・感染症対策における制限緩和の中で、地域とのつながりを深め、地域を活動場所としての作業学習の実践	・木工、園芸、陶芸、清掃の４種の作業班で地域との関わりを意識した取組を展開した。 ・木工班で、近隣の小売店や会社、福祉事業所からの依頼で手掛ける看板製作等の取組、清掃班で、道の駅、函南小学校、三島南高等学校の清掃への取組を継続していること、陶芸班で、物産販売所での販売や店舗からの受注販売に取組でいること、園芸班で、店舗前駐車場での野菜販売や事業所、田農、本校の３者で協力して病院の花壇づくりに取り組んでいること等、地域での実際の活動を通して学ぶ経験を繰り返していく中で、働く意味を学び、生徒の働く意義の意識化につながってきている。地域の人とのかかわりを通した体験が、生徒たちの働く喜びになり、次の意欲につながっている。

	・お互いを認め合い、授業の実際を体験し合う田方農業高校との行事、授業交流、生徒会活動の充実	・交流開始前に、本校教員が田方農業の生徒向けて障害理解のガイダンスを行うことで、正しい知識の理解が促され、生徒同士の良い関わりにつながった。 ・行事交流（対面式、体育祭、田農祭における交流等）７回、田農ライフデザイン科セラピーコースとの共同授業 11 回、他学科との交流授業６回、３年生との体育での授業（サッカー）交流３回など年間で 27 回の交流を実施した。
		・特に、田農祭では、生徒会活動でのかかわりが、作り上げる喜びを感じる機会になった。話し合いや看板の作成等、生徒集会で分校の生徒が司会を行う機会も得た。生徒の良い刺激となり、自然な会話や関わりなどの共生・共育が行われた。
	・田方圏域におけるセンター的役割の取組	・圏域の教育委員会を通して、本校ができる教育相談や学校公開等の地域支援について示すことで、圏域の保護者や職員からの教育相談につなげた。
	・地域の外部講師を招いた専門的な知識や社会生活に活きる知識を学ぶ授業や講座の実施	・授業支援では、サッカー指導、陶芸指導を、講座では、ビルメンテナンス講習やビジネスマナー講習を実施した。各分野における生徒のスキルアップにつながった。
	・職場実習、進路指導の充実	・職場開拓員と連携を密にしながら生徒一人一人の特性や希望に応じた実習先の選択を行っている。職場実習終了後には学年ごと丁寧に振り返りを実施したり、上級生の報告会に下級生が参加して成果と課題を共有したりすることで、３年間を通した職場実習を柱にした取り組みにつながっている。 ・PTA事業との共催による進路に関する保護者向け事業を年２回実施した。講師を招いての社会制度の進路学習会と卒業生の保護者と語る会を開催し、保護者の卒業後の生活を考える意識向上につなげた。

5　教職員について

(1) 異動状況

区分	本務職員							
	校長	副校長	教　頭	事務長	教　諭	養護教諭	事務職員	計 A
転出者			△1		△3		△1	△5
退職者								
転入者		1			3		1	5
新任者								
差引増減	0	1	△1	0	0	0	0	0

区分	臨時・非常勤職員				合　計 Ａ＋Ｂ
	教諭 （任）	教諭 （臨）	会計年度 任用職員	計 Ｂ	
転出者					△5
退職者		△1		△1	△1
転入者	1			1	6
新任者					
差引増減	1	△1	0	0	0

(2) 現員数

本務職員							
校　長	副校長	教　頭	事務長	教　諭	養護 教諭	事務 職員	計 Ａ
	1			16	1	1	19

臨時・非常勤職員				合　計 Ａ＋Ｂ
教諭 （任）	教諭 （臨）	会計年度 任用職員	計 Ｂ	
1	1	1	3	22

(3) 健康管理について

ア　健康管理の推進

教職員健康診断後は、対象者全員が受診した。再検査を指示された者全員が再受診をした。学校管理医より指導を受けた者については校長面談を行い適切な対応を行った。また、職員安全衛生委員会での教職員の心身の健康状況の把握を、プライバシーに配慮しながら職場のリーダーで情報共有し、組織全体で働きやすい職場づくりに取り組んだ。さらに、健康管理やワークライフバランスについて日常的に呼びかけ、心身の健康を自己管理することの大切さも呼び掛けた。

イ　情報機器における労働衛生管理

情報機器作業従事者健康診断では、問診票提出により対象となる職員がおり２次健診を受診し異常なしと判定された。

ウ　腰痛予防対策

腰痛健康診断では、各自の自覚症状について問診を行った結果、医療機関等への受診者はいなかった。

(4) 教職員の研修について

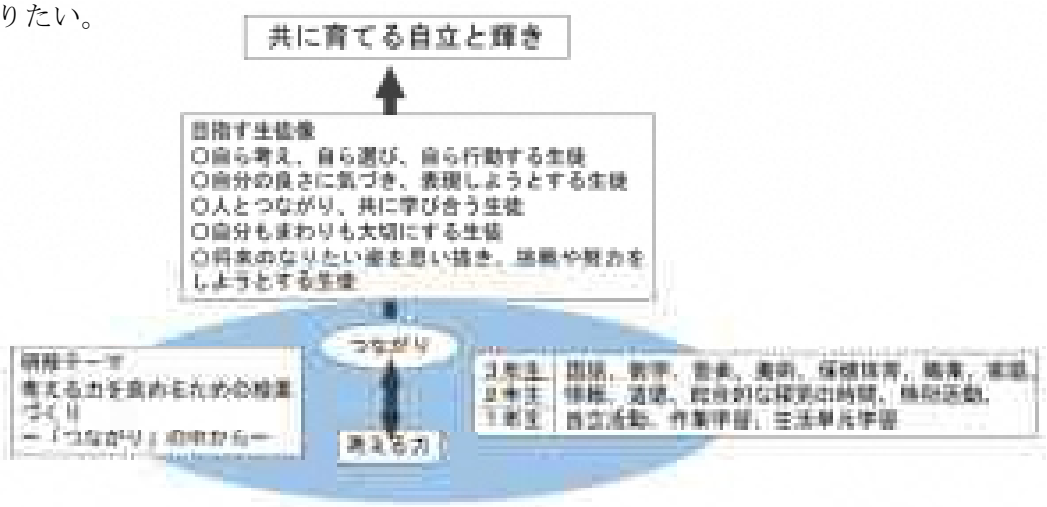
ア　研修テーマについて

「考える力を高める授業づくり～『つながり』の中から～」

昨年度までの３年間では、総合的な探究の時間を研修の窓口とし、防災教育を取り上

げ、生徒の思考の流れを予測した授業実践を積み重ねてきた。今年度は、これまでの実践を他教科・領域に応用させることとし、窓口を限定せず、「『考える力』は『つながり』の中で育まれると同時に、『考える力』を高めることは、生徒たちがより良い『つながり』を築くことにもつながる」という仮説を立て、テーマとして取り組んでいこうと考えた。

３年間の研修をとおし、生徒が考える力を高めることで、主体的に問題解決する力や周囲とつながり、社会で自立し生きていく力を身につけることができるための授業づくりの方法を探りたい。



イ　研修の方法・内容

・学部における「つながり」の共通理解、整理をする。

・各学年において、「考える力」及び「つながり」の視点を明確にした授業実践を行う。

（校内授業研究会　指導案及び授業カードに明記）

・校内学習会を開催し、教員の専門性向上や情報交換の機会を設ける。

・授業研究会に助言者を招聘し、助言を授業改善に活かす。

授業研究会	中心授業
第１回校内授業研究会（７月）	高等部３年生　生活単元学習「いざいざ箱根」
定期訪問（10月）	高等部２年生　生活単元学習「14人の５分間～田農生と共に～」
第２回校内授業研究会（12月）	作業学習（園芸班）「地域のみなさん！伊豆田方野菜を食べてくやさい！～地域販売版～」

ウ　成果と課題

・成果：①学部における「つながり」をグループワークをとおして共通理解、整理をすることができた。また、指導案の単元観に、「つながり」について記述することで、授業者が「つながり」を意識、意図した授業づくりができた。

②「考える力」の定義を学部目標や経営方針に沿った形で共通理解することができた。さらに、「考える力」を意識し、生徒のあらわれを想定しながら授業づくりをすることで、生徒が自ら考え、活動する様子を見取ることができた。

・課題：①助言者から、「考える力」の想定や見取りをしていく中で、日々の生徒の目線を意識したり、机上の整理等の基本的な作業環境を整えたりすることも大

切である。そうすることで、教師の仕掛け、支援が生き、生徒の学びが深まり「考える力」も高まるはず。圃場や作業棟の作業環境や動線を今一度見直せると良い、と助言をいただいた。次年度以降、取り組んでいく。

②１年目のシステムを運用した授業実践及び授業改善…学習過程可視化法をベースにした想定と見取り。

③「考える力」及び「つながり」と研修との関連性の明確化

④授業づくりにおいて、「つながり」の中から考える力を高めるための「仕掛け」に焦点を定め、検討、整理、授業実践に取り組む。

6　防災対策について

田方農業高校との合同訓練３回、分校独自の訓練を２回行った。教職員の防災研修として災害時の教職員の役割分担に応じた対応訓練を実施した。

全校生徒は、ふじのくにジュニア防災士の認定照取得のため知識行動コースで講話と演習を受講して認定証を取得することができた。以降３年周期で実施して在学中に資格を取得するように計画している。

(1) 避難・防災訓練

月　日	訓　練　名	主　な　内　容
４月10日	地区別参集訓練	災害時に同じ居住地区の生徒同士での顔合わせ 田方農業高校との合同参集訓練
５月23日	第１回避難訓練 (避難経路確認)	地震発生時、また火災が発生したときの避難経路確認
８月２日	防災講座	危機管理局職員からの講話と災害時の配備体制に沿った対応訓練IDEAによるグループ活動　等
９月７日	第２回防災訓練 （地震想定）	地震発生時の避難誘導訓練 田方農業高校との非常時での連携確認
12月19日	第３回合同防災訓練 （火災訓練）	火災発生時の田方農業高校との合同避難訓練 消火設備の確認
２月22日	第４回訓練(作業時における避難経路確認訓練)	校舎以外の作業時の分散した場所での授業における避難経路確認訓練

(2) 施設・設備の整備、保守、保安

月１回の安全点検を実施し、生徒が安全に学校生活を送ることが出来るよう努めた。消防施設の点検も行い、教員の防災意識の向上を図るようにした。

(3) 学校警備

鍵の管理の徹底と施錠の徹底を図った。また、不審者対策として来校者の対応の仕方や不審者に遭遇した場合の対処方法などを職員間で確認した。

7　学校開放について

該当なし

２　目指す学校像＜愛鷹分校＞

(1) 教育目標

共に育てる 自立と輝き

－ 子どもの能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する －

「共に」とは学校、保護者、地域の人たちと共に、さらに児童生徒同士、そして児童生徒が自分自身を育て成長するという意味を持つ。 そして「自立」は児童生徒一人一人がそれぞれのステージでできることを増やしていくこと、人 や社会との関わりが広がることとし、「輝き」は自分の良いところを伸ばし、他者から認められ、 自信をもって生きる姿、生きる力を高めることと捉える。目指す学校像として、「安全」「専門」「連携」「チーム」の４つの柱を掲げ、自立と輝く力を育てる学校をめざす。

(2) 目標具現化の柱

ア 人権尊重、命を守る教育に基づいた、生徒が安全に安心して学習できる学校　（安　全）

イ 生徒理解に基づき、個の能力を最大限に伸ばすための支援及び指導ができる学校（専　門）

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携に基づいた、共生社会の実現を目指す学校（連　携）

エ 教職員のチーム意識に基づいた、効率よく迅速に業務を遂行できる学校　（チーム）

３　監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和４年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア 命を守る教育により、生徒が安全に安心して学習できる学校（安全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
自ら命を守る意識と行動ができる生徒の育成	・「災害や犯罪から自ら命を守ることができる生徒を育てている」と答える教員 80%	災害や犯罪から自ら命を守ることができる生徒を育てている 100%	B	・沼津城北高と防災訓練や安全講話を行い、災害時の動きを確認したり安全に対する意識を高めたりすることができた。 ・防災に関する授業を年間通して計画的に行うことができた。 ・在校時だけでなく登下校時の訓練の方法を工夫していきたい。 ・対面での訓練が実施できていない。 ・命を守るという視点が防災中心になっている。
	・「緊急時における対応力が向上している」と答える教員 80%	緊急時における対応力が向上している 72.2%		
	・「自分を守る授業を行うことができている」と答える教員 80%	自分を守る授業を行うことができている 94.5%		
	・「学習した内容を理解させることができている」と答える教員 80%	学習した内容を理解させることができている 94.4%		
道徳教育の充実及び人権を意識した指導	・「道徳の授業を年２回行っている」と答える教員 80%	道徳の授業を年２回行っている　94.4%	A	・学年で道徳の授業を検討することで、道徳の押さえについて意識できるようになってきている。 ・職員研修で不祥事根絶を取り入れ、その都度研修を行えたことは意識を高めるうえでよかった。 ・道徳を行う教員が一部になってしまったので全員ができるようにしたい。 ・道徳の授業づくりを学ぶ
	・「人権意識が向上している」と答える教職員 85%	人権意識が向上している　100%		
	・「生徒に寄添い、話を聞くことができている」と答える教員 80%	生徒に寄添い、話を聞くことができている 100%		

				機会をもちたい。
学校や社会のルールを守って、安全に安心して生活することができる生徒の育成	・「校内や社会のルールを意識して安全に安心して生活する生徒を育てている」と答える教員 80%	校内や社会のルールを意識して安全に安心して生活する生徒を育てている　100%	A	・問題があったときには、その都度校則などを確認することで納得して学校生活を送ることができている。 ・教員向けの研修を考えていきたい。

イ 生徒の能力を最大限に伸ばし、個に適した支援及び指導ができる学校（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
「働く人を育てる」ことに着目し、生徒が、主体的・対話的で深い学びができる授業づくりの実践	・「生徒が主体的・対話的で深い学びをする授業の話し合いができている」と答える教員 80%	「生徒が主体的・対話的で深い学びをする授業の話し合いができている　94.4%	A	・職業の授業を研修窓口にすることで、生徒の主体的な姿を考えることができるようになってきた。 ・授業について話を深める時間がもてない。
キャリア教育の視点に基づいた、知的障害の特性に応じた指導・支援の向上と継承	・「主体的に学校生活や実習に取り組む生徒を育てている」と答える教員 90% ・「障害の特性に応じた指導・支援ができている」と答える教員 80%	主体的に学校生活や実習に取り組む生徒を育てている 94.4% 障害の特性に応じた指導・支援ができている　94.4%	A	・校内での学習だけでなく、次週などでも挨拶や質問など積極的に取り組む姿が多く見られた。 ・ＴＴ間での話し合いで、生徒にわかりやすい授業づくりを進めることができた。 生徒の希望と実態を踏まえた実習先の決め方を、共通理解したい。
ＩＣＴを活用し、生徒が主体的に取り組む授業づくりの実践	・「ICT機器を授業で使っている」と答える教員 80%	ICT機器を授業で使っている 83.3%	A	・調べ学習を中心に活用が深まっている。 ・教員の研修が十分でない。
読書指導の充実と自ら読書に親しむ活動の推進	・「生徒の図書に親しむ機会が増えている」と答える教員 80% ・「図書を利用した活動を行うことができている」と答える教員 80%	生徒の図書に親しむ機会が増えている 94.4% 図書を利用した活動を行うことができている　100%	A	・研究指定を受けたことで、図書コーナーの充実、読書週間の実施など生徒が本に親しむ環境づくりはできてきている。 ・教室にも書棚をおいたが、冊数は十分でない。保管場所、購入計画を考えていく必要がある。

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会の実現を目指す学校　（連携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
沼津城北高等学校との交流活動の充実	・「生徒が主体的に交流できる活動の機会を持つことができている」と答える教員 80% ・「沼津城北高等学校と一緒に行う行事や部活動等を計画している」と答える教員 80%	生徒が主体的に交流できる活動の機会を持つことができている 83.3% 沼津城北高等学校と一緒に行う行事や部活動等を計画している 83.3%	A	・松濤祭を一緒にできたことは、今年度大きな成果となった。 ・サッカー部はアスルクラロ沼津の選手を迎えて合同練習を行えた。 ・城北高校の理科教員が、出前授業として３学期に１時間各学年で授業を行う。 ・交流活動はまだ充実されているとは言えない。

地域や学区の中学校、関係機関等との連携を図り、特別支援教育の理解啓発の推進	・「支援や指導について、地域の学校や関係機関と連携が取れている」と答える教員 80%	支援や指導について、地域の学校や関係機関と連携が取れている 83.3%	A	オープンスクールを実施して、中学生の理解を深めることができた。 幼稚園交流は短時間であるが実施することができた。 各学年の交流で高齢者施設や同年齢交流を行うことが難しかった。 生徒がホームページを作る機会も増え、学校の様子を発信できている。
	・「近隣施設等との交流活動を計画している」と答える教員 80%	近隣施設等との交流活動を計画している 100%		
	・ホームページの更新（月２回以上）	ホームページの更新（月２回以上） 100%		

エ 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校（チーム）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
計画的、効率的な業務遂行力の向上	・「会議の効率化を意識できている」と答える教員 80%	会議の効率化を意識できている 100%	A	会議の持ち方を工夫したことで、効率的になった。 サーバーが、担当者以外にも見やすくする必要がある。 情報共有の方法を考えていく必要がある。
	・「従来の業務を見直し、精選、合理化を図れている」と答える教員 80%	従来の業務を見直し、精選、合理化を図れている 88.9%		
	・「支援方法の知識が深まり、指導力が向上している」と答える教員 80%	支援方法の知識が深まり、指導力が向上している 83.3%		
学校運営に関わる事務手続き、予算の計画的な執行等、本校事務との連携の強化	・「本校事務職員と連携して、事務手続きや予算執行ができている」と答える職員 85%	本校事務職員と連携して、事務手続きや予算執行ができている 94.4%	A	予算執行については、ほぼできたと思われる。 連携するためにどのようなことを押さえていくかが十分でなかった。

(2) 令和５年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア 人権尊重、命を守る教育に基づいた、生徒が安全に安心して学習できる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
人権に配慮した指導の徹底	・職員が、相手の人権を尊重した対応を日々行っている。 ・保護者が、児童生徒の人権が尊重されていると感じている。 ・生徒が、安心して学校生活を送ることができている。	・職員一人一人が、人権を大切にする気持ちをもっている。 ・保護者は、概ね人権が尊重されていると感じている。	B	・人権に関する研修を行ったことで、人権に関する意識が高まり、生徒への対応に気を付けられるようになった。 ・教員の思いが強い時の言葉が、受け取る側に不安を感じさせることがあるので、相手を思いやることをさらに行っていく。
自ら命を守ることができるための、未然防止と緊急対応の、実践力の向上	・感染状況を鑑み必要な対策のもと教育活動が実施されている。 ・発災、緊急時に自分の身を守る対応を理解し、行動できる。 ・日々、安全を意識した行動がとれるような指導を行っている。	・生徒は、繰り返し行っている訓練で、落ち着いて行動することができている。 ・防災学習を、単元を組んで行っている。	A	・地域の防災について、地域の方にフィールドワークの形で実際に見聞きすることができ、自分の事として考えられる生徒が増えた。 ・様々な災害への対応が身に付く学習を行っていく。

イ　生徒理解に基づき、個の能力を最大限に伸ばすための支援及び指導ができる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
キャリア教育の視点に基づいた、知的障害の特性に応じた指導・支援の向上と継承	・職員が、３年間を見通して必要な内容の指導を行っている。 ・生徒が、実習や授業などでの自分の取り組みを適正に評価できている。	・年間指導計画を基に、必要な学習を適切な時期に行っている。 ・実習などの機会をとらえて、生徒が適正な評価をしている。	B	・研修で、職業と作業で生徒に身に付けてほしい力を確認したことで、評価の考え方が共有できた。 ・生徒の実態に沿った、学習内容と学習時期を検討していく必要がある。
ＩＣＴを活用し、生徒が主体的に取り組む授業づくりの実践	・職員が、授業の中にＩＣＴを効果的に取り入れている。 ・生徒が、授業でＩＣＴ機器を活用できている。	・生徒の興味を引く教材の提示を、ICTを使って行っている。 ・生徒が、調べ学習などで積極的に活用している。	B	教員が、視覚的支援を考慮した教材提示をするようになった。 調べ学習以外の授業で、生徒の活用方法を広げていく。

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携に基づいた、共生社会の実現を目指す学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
生徒の自立と輝きに向けた地域や関係機関との協働の充実	・学校運営協議会委員から具体的な支援を得ている。 ・生徒が、ワーク地域に積極的に取り組んでいる。 ・ケース会議後、今後の方針と役割分担が明確になっている。	・教員が学校運営協議会からの支援内容を理解している。 ・ワーク地域の活動に丁寧に取り組んでいる。	B	・１０周年記念に関して、運営協議会からの意見を、行事等に反映することができた。 ・生徒の実態を考え、ワーク地域の再編成の必要性が考えられる。
地域とのつながりの強化	各交流の成果を、城北高職員や保護者、地域が理解している。 職員が、様々な場面で本校の教育について紹介している。	・ホームページで、交流の様子を伝えている。 ・進路や、特別支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰがセンター的機能を意識して学校紹介を行っている。	B	・沼津城北高校の生徒と、特別活動の時間に一緒に活動する機会を設け交流活動を行った。 ・保護者に、交流の成果が十分伝わっていなかった。

エ 教職員のチーム意識に基づいた、効率よく迅速に業務を遂行できる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
働きがいのある職場環境の充実	・教職員が、学年経営や学校行事に積極的に参画し、より良い成果を挙げたり課題が解決できたりしたと感じている。 ・職員が事務室からの伝達に必ず目を通している。	・業務に見通しをもって取り組み、時間外勤務時間が減少している。	B	・教育課程編成委員会等で、生徒の実態や教育課程を踏まえ、改善に向けて積極的な意見が交わせている。 ・業務負担の偏りがみられる。

4　監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和５年度	防災教育学習の積み重ねによる，生徒の自助力の育成 ・危機管理局の職員を招聘し，生徒及び職員の防災研修を行った。 ・地域の地区センターの方からの防災講話や防災倉庫見学（１年生）や，高校との合同訓練を行った。	・防災学習を年間を通して行い、防災時の対応について学びを積み重ねた。自分の命を守るための知識や行動を身につけ、自助力の育成を図ることができた。 ・１年生は、地域の方の協力を得てのフィールドワーク（２回）、２年生は、災害時の食事や必要なものを考えたり、実際に使ったりして防災学習の積み重ねをした。夏季休業中に、職員研修として避難所運営ゲーム（HUG）を行った。出される課題に素早く対応することの難しさを体感することができた。事前に想定できることはマニュアル等に記載しておく。
	地域とのつながりを大切にした作業学習の実践 ・布工房（縫製作業） ・緑工房（農作業） ・ワーク地域（地域事業所での学習）	・作業学習（布工房、緑工房）での製品を地域の店舗や幼稚園などで販売を行っている。布工房では、受注製品は責任をもって丁寧に製作することに努めるとともに、商品開発にも積極的に取り組んだ。緑工房では、地域の人に買ってもらうために栽培の種類や時期の計画を、生徒が自分たちで話し合いを進めるようになっている。 ・ワーク地域では、各学年週に一日地域での製造業、サービス業、介護施設等の事業所で事業所の方と働く経験を積み重ねている。働くための目的や、必要な力を身に付けることを意識して取り組むことができた。 ・生徒の実態や学習の積み重ねを踏まえ、取り組みを見直していく。
	３年間の積み重ねを大切にした作業学習の実践と、ＣＤＦ（キャリアデザインファイル）の作成	・学年進行で作業学習に取り組む中で、各学年のねらいを明確（１年：基礎基本的な働く力の育成、２年：経験をもとに生徒同士コミュニケーションを取りながら進める、３年：生徒同士で協力して作業の運営をする）にした結果、生徒自身が主体的に充実した取り組みができている。また、自己の成長が分かるように、作業日誌とは別にＣＤＦを作成することで、適性を考えるきっかけとなる記録となっている。
	ＰＤＣＡサイクルを意識した単元カードや授業カードを活用した授業づくりの実践 ・職業・作業学習の研究授業を通して「生き生きと働く人を育てる職業教育」をテーマに、生徒が分かったと実感できる授業づくりを目指して研修した。	・研修テーマでもある愛鷹分校としての生き生きと働く人を明確にすることができた、また、単元カードや授業カードの書き方を示すことで授業内容や支援方法などを整理することができた。 ・課題として、生徒の「分かった」と実感できる授業の充実を目指し、単元全体でどのような展開をしていきたいのか具体的に想定していくことが必要であると考える。

	共生・共育の推進と，生徒が経験を広め社会性の育成を図り，社会参加するための学習の設定 ＜沼津城北高等学校との交流＞ ・新入生オリエンテーションでの学校紹介 ・行事・講座への参加，高校の教員による出前授業 ＜地域交流＞ ・１年生と近隣の光長寺幼稚園との交流	・隣接する県立沼津城北高校と文化祭、体育祭を行うことができた。また、新入生オリエンテーションにおいて部主事が分校の学校紹介をする時間を設定してもらい、城北高校生徒の理解啓発に努めることができた。教員向けに、特別支援についての学習会を沼津城北高校で行った。沼津城北高校理科の教員による出前授業では、各学年異なる理科分野での体験学習を行わせてもらっている。 ・サッカー部の交流は、年３回程度ではあるが行うことができた。 ・１年生の幼稚園との交流では、サツマイモのつるさし、収穫を園児たちと共に行った。 ・地域で認められる分校になるよう交流先、交流方法を検討しながら交流を行っていきたい。
	職場実習、進路指導の充実 ・就労促進支援員や関係機関との連携	・就労促進支援員と連携を密にして、生徒の希望や特性に応じた進路先や職場実習先について、本人・保護者へ提案している。また、進路希望の多様化に伴い、福祉事業所とのつながりを増やし、生徒の希望に応えることができた。職場実習を通して、保護者と教員が積極的にかかわり、働く生活に向けて生徒への適切な支援を考えることができた。

５　教職員について

(1) 異動状況

区分	本務職員							
	校　長	副校長	教　頭	事務長	教　諭	養護教諭	事務職員	計 A
転出者					△6			△6
退職者								0
転入者					6			6
新任者					2			2
差引増減	0	0	0	0	2	0	0	2

区分	臨時・非常勤職員				合　計 A＋B
	教諭 （任）	教諭 （臨）	会計年度 任用職員	計 B	
転出者					△6
退職者		△1		△1	△1
転入者	1			1	7
新任者					2
差引増減	1	△1	0	0	2

(2) 現員数

本務職員							
校　長	副校長	教　頭	事務長	教　諭	養護教諭	事務職員	計 A
	1			18	1	1	21

臨時・非常勤職員				合　計 A＋B
教諭 （任）	教諭 （臨）	会計年度 任用職員	計 B	
1		1	2	23

(3) 健康管理について

ア　健康管理の推進

教職員健康診断は、全員が受診し再検査を通知された者も全員受診することができた。産業医からは生活に気をつける事、治療中の職員は継続して医療を受けることを勧められた。

メンタルヘルスも含めて教職員が自分自身で健康管理をするために、教育厚生課で委託している「ストレスカウンセリング通信」を掲示板に転記し、相談機関を利用しやすいようにした。

学校職員衛生委員会の持ち方の工夫をしながら職員の心身の健康状態の把握に努めた。今後も心身の健康に役立つ情報を提供しながら職員を支援していく。

(4) 教職員の研修について

ア　研修テーマ「 生き生きと働く人を目指す進路学習
～生徒が分かったと実感できる授業づくり～」

令和３、４年度の研修で『働く人を育てる職業学習～自ら進んで進路選択ができる生徒を目指す授業づくり～』をテーマに、職業を窓口に２カ年で進めてきた。

成果として、教師が生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出すための授業づくりでは、４つの視点（解決したい課題や問い、考えるための材料、対話と思考、学習の成果）を１時間ごとの授業展開に取り入れることを意識することができた。また、生徒の学びの姿を追う中で、学習内容の精選や単元の適切な時期・期間等、年間指導計画を見直すことができた。

一方、課題として実践を積み重ねていく中で、授業実践の中（特に生徒の話し合い活動）で、TTの連携や支援が不足している部分があった。さらに、１回の授業の学習内容を考える際に、解決したい課題や問い（＝目標）が絞りきれないことによって、まとめとしての生徒の学習の成果や教師が押さえたい学習内容が不明瞭になってしまうことがあった。

そこで、今年度はこれらの課題に取り組みながら、４つの視点を単元全体で達成できるような授業づくり（P＝Plan）に取り組み、日々の実践を重ねていきたいと考える。授

業づくりに重点を置き、支援方法や働きかけについて見直す中で、生徒が「分かった」と実感できる授業を展開できるよう、更なる充実を目指していく。そして、これまでの研修で取り組んできた「職業」をベースに作業学習や産業現等における実習での学びを関連付けることで、進路学習を自分事として捉えるきっかけとしたい。生徒自ら主体的に活動に取り組む態度の育成を図る中で、“生き生きと働く人”を目指し、それに必要な学びを考えたい。

今年度は、単元カードや授業カードを用いて、解決したい課題や問い（＝目標）を明確にし、学年間（T・T間）で共通理解を図りながら４つの視点を取り入れた単元計画を作成し、整理していきたい。そして、生徒が自己評価できる目標設定や活動設定、教材教具・手立ての工夫をし、それを共有することで、より生徒が分かったと実感できる授業実践を目指す。

イ　研究の内容・方法

授業づくり

・単元カードや授業カードの書き方を明確にし、４つの視点を取り入れた単元計画を立てる。

・生徒が分かったと実感できる授業内容や、支援方法をT・T間や学年で共有し、見直していく。

・生徒が主体的に活動できる授業実践を目指す。

生き生きと働く姿を明確にする

・愛鷹分校としての『生き生きと働く人』をT・T間で共通理解する。

・生徒の〇ヶ月後、１年後…の姿を具体的にイメージし共有する。

ウ　成果と課題

・成果：①愛鷹分校としての『生き生きと働く人』を明確にすることができた。

②単元カードや授業カードを活用することで授業内容や支援内容など整理することを意識できた。

・課題：生徒の「分かった」と実感できる授業の充実を目指す

⇒今後、協同学習（＝自分の力を目一杯使って、自分の責任を果たすように努力し、全員でグループ全体の目標を達成することを試みる学習方法）についても学んでいく。生徒同士で支え合い、対等な関係で学んでいく。

６　防災対策について

昨年度同様、沼津城北高校の学校防災計画と連動し、分校の防災計画・防災・防犯マニュアル、消防計画を作成した。

沼津城北高校との合同防災訓練を２回行ったほか、分校独自の避難・防災訓練を数回行った。また、１年生は地域と連携した防災学習を実施した。

(1) 避難・防災訓練

月　日	訓　練　名	主　な　内　容
５月２日	第１回城北合同防火・防災教育 （沼津城北高校との合同訓練）	地震時の対応 誘導・避難等の実践、集合・点呼の確認
８月１日	防災研修（教員）	県東部地域局危機管理課担当者の講話

		災害時判断ゲーム、避難所運営ゲーム
８月30日 ～ ９月４日	全学年　防災学習	災害用伝言ダイヤル（１７１）訓練
９月11日	第２回避難訓練 （地震発生対応）	地震発生時の避難経路確認（抜き打ち）
９月７日 ～ 10月12日	１年生　防災学習	グループ別学習（避難所生活や日常の備えについて、掲示づくりなど） 門池地区防災についての講話とフィールドワーク　門池地区自治会連合会（９月 25 日） 県東部地域局危機管理課担当者の講話・災害時判断ゲーム（10 月４日）
２月22日	２年生　防災学習	防災衣料・食品以外に必要なもの（衛生用品、安全用品）の買い物学習
11月６日	第３回 合同地震避難訓練 （沼津城北高校との合同訓練）	火災避難訓練 誘導・避難等の実践, 集合（地区別）・点呼の確認,

(2) 施設・設備の整備，保守，保安

ア　消防点検は沼津城北高校と同日実施した。

イ　教職員が、施設・設備の安全管理意識を持つように努めた。副校長の朝夕の校舎内外巡視、養護教諭の定期的な巡視のほか、月１回の安全点検を実施して校舎内外の施設・設備管理を徹底し、生徒が安全に活動できるように努めた。

(3) 学校警備

ア　生徒が登校する前に副校長が校内と校舎の周りを巡回した。その際、窓開けと危険箇所のチェックを行い安全確保を行った。

イ　戸締りは、係の生徒が下校前に３階の生徒利用個所の戸締りチェックを実施した。教員の当番が終業時に校舎内の戸締りと火気点検を実施するとともに、副校長が退庁時に再度一巡した。夜間は、警備会社の機械警備により継続した警備体制を図り、防災・防犯に努めた。

7　学校開放について

該当なし

□□□□□

事務執行の根拠法令調

項　　目	根拠法令
学校教育に関すること	教育基本法（第１条、第２条、第４条、第６条、第９条） 学校教育法（第１条、第２条、第３条、第72 条、第73 条、第74 条、第 76 条､第 77 条） 学校教育法施行規則 学校給食法（第１条、第２条、第３条、第４条） 学校保健安全法（第５条） 特別支援学校の高等部の学科を定める省令 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第１条、第２条、第３条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第１条、第２条、第３条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則
学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第80 条、137 条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33 条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21 条、第 22 条） 学校保健安全法（第 15 条、第27 条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第３条、第４条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第１条、第２条、第３条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱

□□□□□

学校施設の概要

1　面積及び所有区分

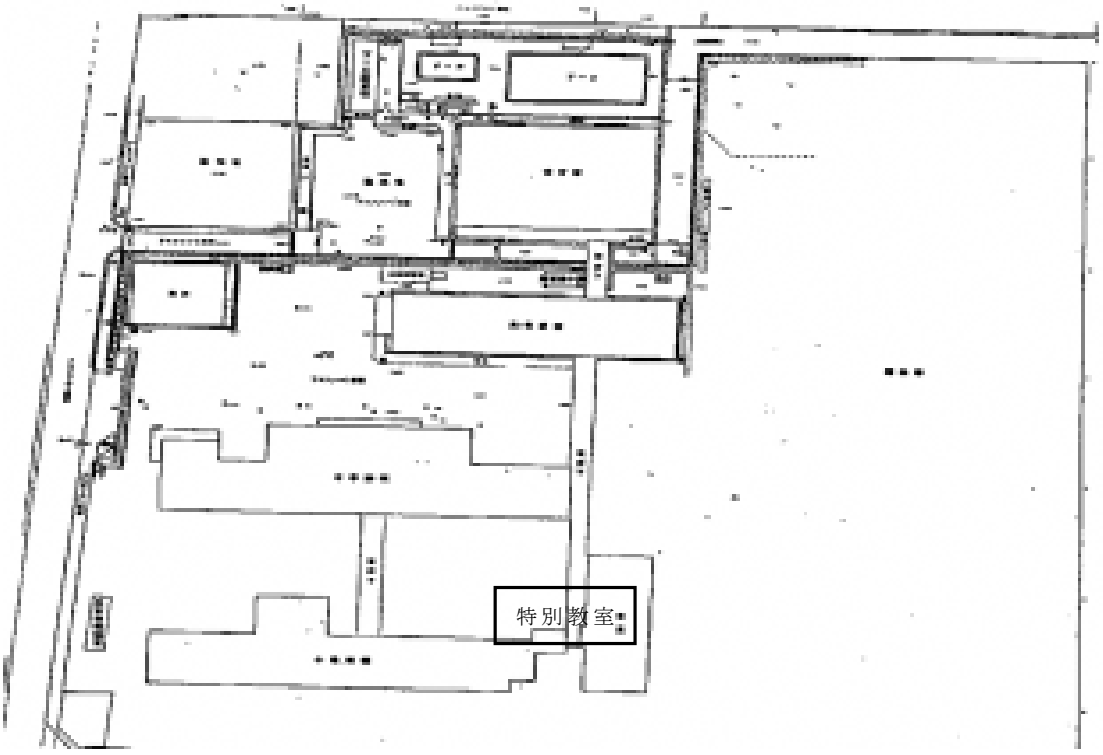
（令和６年３月31日現在）

区分		面積 ㎡	所有内訳 県有 ㎡	国有 ㎡	市町村有 ㎡	後援会有 ㎡	民有 ㎡	摘要
学校敷地		18,536.70	18,013.40		523.30			
内訳	校舎敷地	9,935.20	9,935.20					本校
	運動場敷地	8,076.20	8,076.20					本校
	その他の敷地	525.30	2.00		523.30			本校　523.30㎡ 伊豆田方分校　2.00㎡ (田方農高使用承認)
実習地		2,016.44	302.00				1,714.44	
内訳	田							
	畑	2,016.44	302.00				1,714.44	本校　905.44㎡ 伊豆田方分校302.00㎡ (田方農高使用承認) 愛鷹分校　809.00㎡
	茶園							
	果樹園							
演習林								
校舎		建 3,095.77 延 6,930.07	3,095.77 6,930.07					本校　2,360.48㎡ 5,692.53㎡ 伊豆田方分校 361.44㎡ 361.44㎡ (田方農高使用承認) 愛鷹分校　373.85㎡ 876.10㎡ (沼津城北高使用承認)
体育館		建　573.50 延　573.50	573.50 573.50					本校
武道場								
その他の建物		建 917.25 延 890.83	建 917.25 延 890.83					本校　505.86㎡ 479.44㎡ 伊豆田方分校 162.00㎡ 162.00㎡ (田方農高使用承認) 愛鷹分校　249.39㎡ 249.39㎡ (沼津城北高使用承認)
寄宿舎								
生活館								
プール		192	192					
職員住宅								

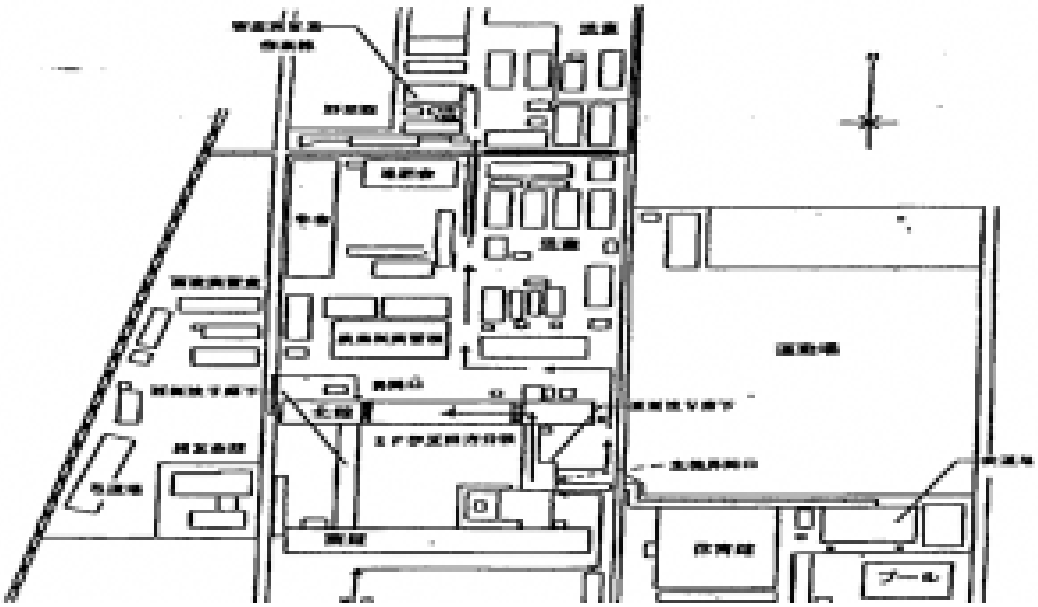
２　配置・規模等

（１）校舎等の配置図

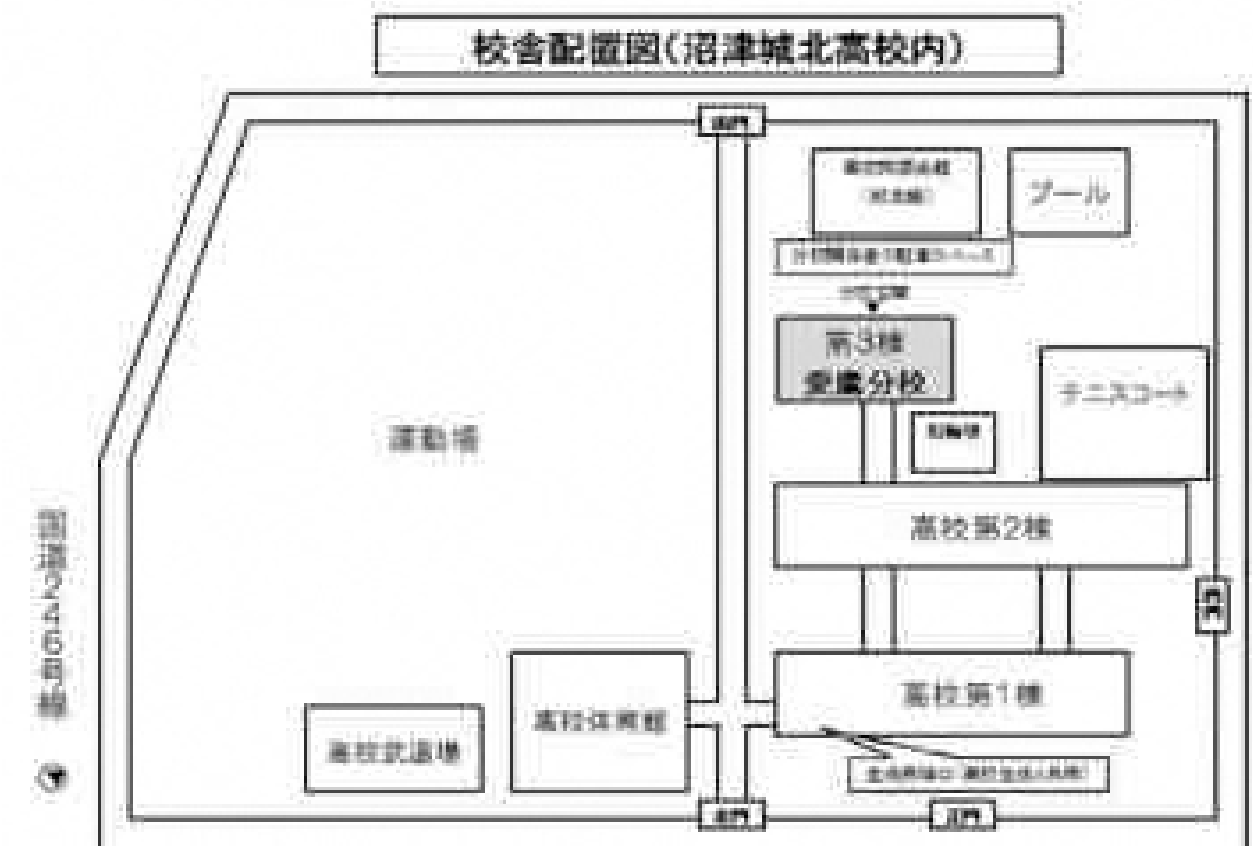
〈本校〉



〈伊豆田方分校〉



〈愛鷹分校〉



（２）学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分		学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当　校	本校	18,011.40㎡	5,692.53㎡	8,076.20㎡
	伊豆田方分校	0.00㎡	361.44㎡	0.00㎡
	愛鷹分校	0.00㎡	876.10㎡	0.00㎡
県平均		18,814.78㎡	6,914.52㎡	5,244.39㎡

□□□□□

在　籍　生　徒　調

（本校）　　（令和６年３月31日現在）

学年	区分＼学科別	小学部 定員	小学部 男子	小学部 女子	小学部 計	中学部 定員	中学部 男子	中学部 女子	中学部 計	高等部 定員	高等部 男子	高等部 女子	高等部 計	計 定員	計 男子	計 女子	計 計
１年	入学者	－	9	2	11	－	9	5	14	30	13	15	28	－	31	22	53
	増加		1	0	1		0	1	1		0	0	0		1	1	2
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現在		10	2	12		9	6	15		13	15	28		32	23	55
２年	入学者	－	5	7	12	－	11	7	18	39	24	7	31	－	40	21	61
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	２年時当初		5	7	12		11	7	18		24	7	31		40	21	61
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		3	1	4		3	1	4
	現在		5	7	12		11	7	18		21	6	27		37	20	57
３年	入学者	－	6	6	12	－	6	8	14	39	19	11	30	－	31	25	56
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	２年時当初		6	6	12		6	8	14		19	11	30		31	25	56
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	1	1		0	1	1		1	1	2		1	3	4
	３年時当初		6	5	11		6	7	13		18	10	28		30	22	52
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		3	0	3		3	0	3
	現在		6	5	11		6	7	13		15	10	25		27	22	49
４年	入学者	－	17	4	21									－	17	4	21
	増加		2	0	2										2	0	2
	減少		6	3	9										6	3	9
	２年時当初		13	1	14										13	1	14
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		1	0	1										1	0	1
	３年時当初		12	1	13										12	1	13
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		1	0	1										1	0	1
	４年時当初		11	1	12										11	1	12
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		0	0	0										0	0	0
	現在		11	1	12										11	1	12
５年	入学者	－	24	9	33									－	24	9	33
	増加		2	0	2										2	0	2
	減少		0	0	0										0	0	0
	２年時当初		26	9	35										26	9	35
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		7	7	14										7	7	14
	３年時当初		19	2	21										19	2	21
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		0	0	0										0	0	0
	４年時当初		19	2	21										19	2	21
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		1	0	1										1	0	1
	５年時当初		18	2	20										18	2	20
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		0	0	0										0	0	0
	現在		18	2	20										18	2	20
６年	入学者	－	22	2	24									－	22	2	24
	増加		1	1	2										1	1	2
	減少		0	0	0										0	0	0
	２年時当初		23	3	26										23	3	26
	増加		0	1	1										0	1	1
	減少		1	0	1										1	0	1
	３年時当初		22	4	26										22	4	26
	増加		0	1	1										0	1	1
	減少		9	1	10										9	1	10
	４年時当初		13	4	17										13	4	17
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		0	0	0										0	0	0
	５年時当初		13	4	17										13	4	17
	増加		1	0	1										1	0	1
	減少		0	0	0										0	0	0
	６年時当初		14	4	18										14	4	18
	増加		1	0	1										1	0	1
	減少		1	0	1										1	0	1
	現在		14	4	18										14	4	18
合計			64	21	85		26	20	46		49	31	80		139	72	211

（伊豆田方分校）

学年	学科別 区分		高　等　部			
			定員	男子	女子	計
１年	入　学　者		18	9	2	11
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	現　在			9	2	11
２年	入　学　者		18	7	8	15
		増　加		0	0	0
		減　少		0	1	1
	２　年　時　当　初			7	7	14
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	現　在			7	6	14
３年	入　学　者		18	9	3	12
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	２　年　時　当　初			9	3	12
		増　加		0	0	0
		減　少		0	1	1
	３　年　時　当　初			9	2	11
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	現　在			9	2	11
合　計			54	25	10	36

（愛鷹分校）

学年	学科別 区分		高　等　部			
			定員	男子	女子	計
１年	入　学　者		18	12	5	17
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	現　在			12	5	17
２年	入　学　者		18	12	6	18
		増　加		0	0	0
		減　少		1	0	1
	２　年　時　当　初			11	6	17
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	現　在			11	6	17
３年	入　学　者		18	11	7	18
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	２　年　時　当　初			11	7	18
		増　加		0	0	0
		減　少		0	1	1
	３　年　時　当　初			11	6	17
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	現　在			11	6	17
合　計			54	34	17	51

□□□□□

入学志願者及び入学者数調

（本校）

区　　分		H31 年度	R２年度	R３年度	R４年度	R５年度
学　　科　　別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員　（A）		48	66	39	39	30
募集者数　（B）		48	66	39	39	30
志願者数	男	28	45	19	24	13
	女	16	20	12	7	15
	計（C）	44	65	31	31	28
受検者数	男	28	43	19	24	13
	女	16	20	11	7	15
	計（D）	44	63	30	31	28
合格者数	男	28	43	19	24	13
	女	16	20	11	7	15
	計（E）	44	63	30	31	28
志願倍率（C）／（B）		0.92	0.98	0.79	0.79	0.93
受検倍率（D）／（B）		0.92	0.95	0.77	0.79	0.93
入学者数	男	28	43	19	24	13
	女	15	20	11	7	15
	計（F）	43	63	30	31	28
充足率（F）／（A）		0.90	0.95	0.77	0.79	0.93

（伊豆田方分校）

区　　分		H31 年度	R２年度	R３年度	R４年度	R５年度
学　　科　　別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員　（A）		18	18	18	18	18
募集者数　（B）		18	18	18	18	18
志願者数	男	8	13	9	7	9
	女	4	5	3	8	2
	計（C）	12	18	12	15	11
受検者数	男	8	13	9	7	9
	女	4	5	3	8	2
	計（D）	12	18	12	15	11
合格者数	男	8	13	9	7	9
	女	4	5	3	8	2
	計（E）	12	18	12	15	11
志願倍率（C）／（B）		0.67	1.00	0.67	0.83	0.61
受検倍率（D）／（B）		0.67	1.00	0.67	0.83	0.61
入学者数	男	8	13	9	7	9
	女	4	5	3	8	2
	計（F）	12	18	12	15	11
充足率（F）／（A）		0.67	1.00	0.67	0.83	0.61

（愛鷹分校）

区　　分		H31 年度	R２年度	R３年度	R４年度	R５年度
学　　科　　別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員　（A）		18	18	18	18	18
募集者数　（B）		18	18	18	18	18
志願者数	男	16	16	12	12	12
	女	6	9	8	6	5
	計（C）	22	25	20	18	17
受検者数	男	16	15	12	12	12
	女	6	9	8	6	5
	計（D）	22	24	20	18	17
合格者数	男	13	13	11	12	12
	女	5	5	7	6	5
	計（E）	18	18	18	18	17
志願倍率（C）／（B）		1.22	1.39	1.11	1.00	0.94
受検倍率（D）／（B）		1.22	1.33	1.11	1.00	0.94
入学者数	男	13	13	11	12	12
	女	5	5	7	6	5
	計（F）	18	18	18	18	17
充足率（F）／（A）		1.00	1.00	1.00	1.00	0.94

□□□□□

卒業生の動向調

（本　校）　　（令和６年３月31日現在）

区分		中学部	高等部 本科	合計
進学者	普通高校	0		0
	特別支援学校高等部	10		10
	高等部専攻科		0	0
	四年制大学		0	0
	短期大学		0	0
	専修・各種学校	0	0	0
	公共職業訓練校	0	1	1
	小計	10	1	11
施設等入所者	障害者支援施設等	3	22	25
	他の施設	0	0	0
	小計	3	22	25
就職者		0	2	2
在宅療養等		0	0	0
その他		0	0	0
計		13	25	38

（伊豆田方分校）

区分		高等部 本科
進学者	普通高校	
	特別支援学校高等部	
	高等部専攻科	0
	四年制大学	0
	短期大学	0
	専修・各種学校	0
	公共職業訓練校	0
	小計	0
施設等入所者	障害者支援施設等	6
	他の施設	0
	小計	6
就職者		5
在宅療養等		0
その他		0
計		11

（愛鷹分校）

区分		高等部 本科
進学者	普通高校	
	特別支援学校高等部	
	高等部専攻科	0
	四年制大学	0
	短期大学	0
	専修・各種学校	0
	公共職業訓練校	0
	小計	0
施設等入所者	障害者支援施設等	0
	他の施設	0
	小計	0
就職者		15
在宅療養等		0
その他		2
計		17

□□□□□

生徒の状況

1　生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

（本校）　　（令和６年３月 31 日現在）（単位：人）

市町名	沼津市	清水町	長泉町	合　計
生徒数	162	26	23	211
構成比％	77%	12%	11%	100%

（伊豆田方分校）

市町名	伊豆市	伊豆の国市	函南町	その他	合　計
生徒数	6	18	12	0	36
構成比％	17%	50%	33%	0%	100%

（愛鷹分校）

市町名	御殿場市	裾野市	沼津市	三島市	小山町	長泉町	清水町	合　計
生徒数	6	5	16	9	1	8	6	51
構成比％	12%	10%	31%	18%	2%	15%	12%	100%

(2) 通学方法

（本校）　　（令和６年３月 31 日現在）（単位：人）

区　分	ｽｸｰﾙﾊﾞｽ	徒歩	自家用車	路線ﾊﾞｽ	JR・私鉄	自転車	あしたか学園	合　計
生徒数	110	18	42	20	4	1	16	211
構成比％	52%	8%	20%	9%	2%	1%	8%	100%

（伊豆田方分校）

区　分	徒歩	鉄道	鉄道・バス	自転車	電車・自転車	その他	合計
生徒数	9	12	3	3	4	5	36
構成比％	25%	33%	９％	9％	11％	13％	100％

（愛鷹分校）

区　分	徒歩	路線ﾊﾞｽ	鉄道・徒歩	鉄道・ﾊﾞｽ・徒歩	自転車・鉄道・徒歩	自転車・ﾊﾞｽ	自転車	合　計
生徒数	6	11	1	10	10	4	8	51
構成比％	12%	22%	2%	20%	20%	8%	16%	100%

２　部（クラブ）の加入状況

（本校　高等部）　　（令和６年３月 31 日現在）（単位：人）

区　　分		運動部	文化部	未加入者	計
部(ｸﾗﾌﾞ) 数		2	1		3
男子	１　年	5	0	8	13
	２　年	2	1	18	21
	３　年	3	1	11	15
	計　（A）	10	2	37	49
	構成比	20%	4%	76%	100%
女子	１　年	5	0	10	15
	２　年	1	0	5	6
	３　年	3	0	7	10
	計　（B）	9	0	22	31
	構成比	29%	0%	71%	100%
合計	（A＋B）	19	2	59	80
	構成比	24%	2%	74%	100%

（伊豆田方分校　高等部）

区　　分		運動部	文化部	未加入者	計
部(ｸﾗﾌﾞ) 数		1	1		2
男子	１　年	3	5	1	9
	２　年	3	4	0	7
	３　年	5	4	0	9
	計　（A）	11	13	1	25
	構成比	44%	52%	４％	100%
女子	１　年	1	0	1	2
	２　年	5	1	1	7
	３　年	1	1	0	2
	計　（B）	7	2	2	11
	構成比	64%	18%	18%	100%
合計	（A＋B）	18	15	3	36
	構成比	50%	42%	８％	100%

愛鷹分校　高等部）

区　　分		運動部	文化部	未加入者	計
部(ｸﾗﾌﾞ) 数		1	1		2
男子	1　年	5	1	6	12
	2　年	5	2	4	11
	3　年	5	1	5	11
	計　（A）	15	4	15	34
	構成比	44%	12%	44%	100%
女子	1　年	1	1	3	5
	2　年	1	2	3	6
	3　年	0	0	6	6
	計　（B）	2	3	12	17
	構成比	12%	18%	70%	100%
合計	（A＋B）	17	7	27	51
	構成比	33%	14%	53%	100%

3　障害別児童生徒数

（本校）　　（令和６年３月 31 日現在）（単位：人）

区　　分		１年	２年	３年	４年	５年	６年	合計	学級数
小学部	単一障害	5	7	7	5	12	14	50	11
	重複障害	7	5	4	7	8	4	35	15
	肢体重複								
合計		12	12	11	12	20	18	85	26
中学部	単一障害	9	11	9				29	6
	重複障害	6	7	4				17	7
	肢体重複								
合計		15	18	13				46	13
高等部	単一障害	26	25	24				75	10
	重複障害	2	2	1				5	3
	肢体重複								
合計		28	27	25				80	13

（伊豆田方分校）

区　　分		１年	２年	３年	４年	５年	６年	合計	学級数
高等部	単一障害	11	14	11				36	6
	重複障害								
	肢体重複								
合計		11	14	11				36	6

（愛鷹分校）（R6.2.28 現在）

区　　分		１年	２年	３年	４年	５年	６年	合計	学級数
高等部	単一障害	17	17	17				51	6
	重複障害								
	肢体重複								
合計		17	17	17				51	6

４　起因疾患別児童生徒数

（本校）　（令和６年３月 31 日現在）（単位：人）

区　分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
小学部	9	20	46	2	4	0	4	85
中学部	5	11	22	0	2	0	6	46
高等部	1	6	32	1	0	0	40	80
計	15	37	100	3	6	0	50	211

（伊豆田方分校）

区　分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
高等部	8	0	11	1	0	0	16	36

（愛鷹分校）

区　分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
高等部	4	0	23	1	0	0	23	51

□□□□□

職　員　調

本校　　（令和６年４月１日現在）

整理番号	職　名	氏　名	事務分担	住　所	勤務年数	摘　要
1	校 長	青木　暁乃		□□□□□	□年□月	□□□□□
2	副校長	村田　健二		□□□□□	□年□月	□□□□□
3	教 頭	植松　隆洋		□□□□□	□年□月	□□□□□
4	教 諭	太田　弥生	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
5	教 諭	竹内　君江	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
6	教 諭	松本　順子	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
7	教 諭	松下　智昭	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
8	教 諭	渡邉　英也	小5	□□□□□	□年□月	□□□□□
9	教 諭	渡井　浩司	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
10	教 諭	星谷　久実	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
11	教 諭	遠藤　貴子	中3	□□□□□	□年□月	□□□□□
12	教 諭	寺田　准子	小学部	□□□□□	□年□月	□□□□□
13	教 諭	佐藤　亜矢子	中3	□□□□□	□年□月	□□□□□
14	教 諭	髙藤　禎博	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
15	教 諭	村松　友余	中学部	□□□□□	□年□月	□□□□□
16	教 諭	小割　めぐみ	小2	□□□□□	□年□月	□□□□□
17	教 諭	齋下　徹	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
18	教 諭	髙橋　美枝	小学部	□□□□□	□年□月	□□□□□
19	教 諭	小柳　梓	小3	□□□□□	□年□月	□□□□□
20	教 諭	田代　美紀	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
21	教 諭	齋藤　一成	中3	□□□□□	□年□月	□□□□□
22	教 諭	佐野　緑	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
23	教 諭	市原　智美	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
24	教 諭	藏田　篤	小4	□□□□□	□年□月	□□□□□
25	教 諭	渡邉　尚子	中1	□□□□□	□年□月	□□□□□
26	教 諭	羽田　和美	中学部	□□□□□	□年□月	□□□□□
27	教 諭	西郷　正晃	中学部	□□□□□	□年□月	□□□□□
28	教 諭	伊藤　典子	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
29	教 諭	森　貴史	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
30	教 諭	唐木　栄治	小2	□□□□□	□年□月	□□□□□
31	教 諭	田代　佳子	中2	□□□□□	□年□月	□□□□□
32	教 諭	山本　愛花	中学部	□□□□□	□年□月	□□□□□
33	教 諭	渡邉　里美	大学院派遣	□□□□□	□年□月	□□□□□
34	教 諭	小林　能美	小学部	□□□□□	□年□月	□□□□□
35	教 諭	長島　信之	中1	□□□□□	□年□月	□□□□□
36	教 諭	太田　洋介	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
37	教 諭	若林　恵理香	小4	□□□□□	□年□月	□□□□□
38	教 諭	深澤　理恵子	小2	□□□□□	□年□月	□□□□□
39	教 諭	山本　未来	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
40	教 諭	木下　哲宏	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
41	教 諭	上野　日奈子	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
42	教 諭	鈴木　美津保	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
43	教 諭	竹内　知子	中1	□□□□□	□年□月	□□□□□
44	教 諭	板橋　幸代	中1	□□□□□	□年□月	□□□□□
45	教 諭	六車　千晴	小1	□□□□□	□年□月	□□□□□
46	教 諭	大嶽　篤子	小4	□□□□□	□年□月	□□□□□
47	教 諭	佐野　里香	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
48	教 諭	古藤田　純一	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
49	教 諭	鈴木　健太郎	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
50	教 諭	渡邉　祐	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　所	勤務年数	摘　　要
51	教 諭	久保田　充俊	中1	□□□□□	□年□月	□□□□□
52	教 諭	秋山　恭世	育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
53	教 諭	下村　真理	小3	□□□□□	□年□月	□□□□□
54	教 諭	南畑　瑞恵	小1	□□□□□	□年□月	□□□□□
55	教 諭	池田　萌	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
56	教 諭	平尾　麻衣子	小3	□□□□□	□年□月	□□□□□
57	教 諭	廣瀬　祥子	小1	□□□□□	□年□月	□□□□□
58	教 諭	進士　祐太郎	小5	□□□□□	□年□月	□□□□□
59	教 諭	渡辺　実沙	育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
60	教 諭	千葉　友香	産育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
61	教 諭	大賀　麻衣	小5	□□□□□	□年□月	□□□□□
62	教 諭	石田　彩美	育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
63	教 諭	岩沢　啓史	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
64	教 諭	岩佐　江里子	中2	□□□□□	□年□月	□□□□□
65	教 諭	柏木　智希	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
66	教 諭	福島　香織	育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
67	教 諭	寺島　和代	育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
68	教 諭	諸星　眞靖	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
69	教 諭	後藤　舞衣	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
70	教 諭	鈴木　陽大	中3	□□□□□	□年□月	□□□□□
71	教 諭	森口　京祐	中2	□□□□□	□年□月	□□□□□
72	教 諭	小林　将大	小3	□□□□□	□年□月	□□□□□
73	教 諭	富田　理美	小3	□□□□□	□年□月	□□□□□
74	教 諭	鈴木　曜子	小5	□□□□□	□年□月	□□□□□
75	教 諭	村松　麗華	中3	□□□□□	□年□月	□□□□□
76	教 諭	上杉　尚輝	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
77	教 諭	望月　佳菜	中3	□□□□□	□年□月	□□□□□
78	教 諭	三村　あかね	育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
79	教 諭	久保田　将利	小3	□□□□□	□年□月	□□□□□
80	教 諭	佐野　文美	小4	□□□□□	□年□月	□□□□□
81	教 諭	中村　真依	小1	□□□□□	□年□月	□□□□□
82	教 諭	勝又　奈月	中1	□□□□□	□年□月	□□□□□
83	教 諭	吉村　俊樹	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
84	教 諭	野月　優	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
85	教 諭	鍛治　拓海	小5	□□□□□	□年□月	□□□□□
86	教 諭	佐野　美咲	小2	□□□□□	□年□月	□□□□□
87	教 諭	鈴木　智詞	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
88	教 諭	岩附　佐知	育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
89	教 諭	白砂　美果子	配偶者同行休業	□□□□□	□年□月	□□□□□
90	教 諭	長邉　さつき	小2	□□□□□	□年□月	□□□□□
91	教 諭	吉田　里奈	小1	□□□□□	□年□月	□□□□□
92	教 諭	清水　莉子	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
93	教 諭	田邉　友結	小4	□□□□□	□年□月	□□□□□
94	教 諭	吉川　将人	中1	□□□□□	□年□月	□□□□□
95	教 諭	小早川　拓巳	小4	□□□□□	□年□月	□□□□□
96	教 諭	島田　愛美	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
97	教 諭	淺賀　康平	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
98	教 諭	平出　早紀	小2	□□□□□	□年□月	□□□□□
99	養護教諭	島田　寿江	保健	□□□□□	□年□月	□□□□□
100	養護教諭	小林　宏美	保健	□□□□□	□年□月	□□□□□
101	栄養教諭	山﨑　聡子	育休	□□□□□	□年□月	□□□□□
102	事務長	髙木　伸明		□□□□□	□年□月	□□□□□
103	主査	大平　光子	会計・庶務	□□□□□	□年□月	□□□□□

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　所	勤務年数	摘　　要
104	主査	勝又　啓	会計･財産	□□□□□	□年□月	□□□□□
105	主事	杉山　瑞貴	会計･庶務	□□□□□	□年□月	□□□□□
平 均 年 数					4年1月	

臨時的任用職員・会計年度任用職員・学校医

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　所	勤務年数	摘　　要
1	教諭(任)	廣瀬　悦子	小1	□□□□□	□年□月	□□□□□
2	教諭(任)	川口　直子	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
3	教諭(任)	勝又　志織	中2	□□□□□	□年□月	□□□□□
4	教諭(任)	竹内　理央	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
5	教諭(任)	渡邉　このみ	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
6	教諭(任)	檜山　美乃里	小1	□□□□□	□年□月	□□□□□
7	教諭(任)	不破　篤子	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
8	教諭(任)	石井　基江	中3	□□□□□	□年□月	□□□□□
9	教諭(任)	内藤　美保	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
10	教諭(臨)	成岡　美和	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
11	教諭(臨)	杉浦　文子	小6	□□□□□	□年□月	□□□□□
12	教諭(臨)	鈴木　孝治	小1	□□□□□	□年□月	□□□□□
13	教諭(臨)	藤森　たか江	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
14	教諭(臨)	加藤　風雅	中2	□□□□□	□年□月	□□□□□
15	栄養士(臨)	齋藤　ひとみ	給食	□□□□□	□年□月	□□□□□
16	非常勤労務職員	金澤　聡美	事務補助	□□□□□	□年□月	□□□□□
17	非常勤労務職員	多田　麻美	事務補助	□□□□□	□年□月	□□□□□
18	実習支援指導員	渡邉　広和	実習支援員指導員	□□□□□	□年□月	□□□□□
19	非常勤嘱託員	青木　龍志	実習支援員	□□□□□	□年□月	□□□□□
20	非常勤嘱託員	加藤　萌花	実習支援員	□□□□□	□年□月	□□□□□
21	非常勤嘱託員	斉藤　健太	実習支援員	□□□□□	□年□月	□□□□□
22	非常勤講師(看護)	上田　房代	非常勤講師(看護)	□□□□□	□年□月	□□□□□
23	非常勤労務職員	鈴木　千鶴子	添乗介助	□□□□□	□年□月	□□□□□
24	非常勤労務職員	相澤　芳美	添乗介助	□□□□□	□年□月	□□□□□
25	非常勤労務職員	持田　弘子	添乗介助	□□□□□	□年□月	□□□□□
26	非常勤労務職員	佐藤　愛子	添乗介助	□□□□□	□年□月	□□□□□
27	非常勤労務職員	丸山　喜美子	添乗介助	□□□□□	□年□月	□□□□□
28	非常勤労務職員	田中　利直	添乗介助	□□□□□	□年□月	□□□□□
29	学校医	旭　暢照	内科	□□□□□	□年□月	□□□□□
30	学校医	名古　良輔	眼科	□□□□□	□年□月	□□□□□
31	学校医	森　聖哲	耳鼻咽喉科	□□□□□	□年□月	□□□□□
32	学校医	金元　洋人	整形外科	□□□□□	□年□月	□□□□□
33	学校医	河野　英生	歯科	□□□□□	□年□月	□□□□□
34	薬剤師	松永　卓也	衛生	□□□□□	□年□月	□□□□□

□□□□□

職　員　調

伊豆田方分校

（令和6年4月1日現在）

整理番号	職　名	氏　名	事務分担	住　所	勤務年数	摘　要
1	副校長	高木　亮		□□□□□	□年□月	□□□□□
2	教諭	髙橋　房一	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
3	教 諭	佐藤　貴志	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
4	教 諭	岡山　昌義	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
5	教 諭	佐藤　保寿	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
6	教 諭	鈴木　泰洋	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
7	教 諭	杉山　和子	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
8	教 諭	二見　希志恵	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
9	教 諭	宮城　元気	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
10	教 諭	柚岡　由紀	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
11	教 諭	山口　歩惟	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
12	教 諭	神尾　俊平	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
13	教 諭	西村　智世	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
14	教 諭	髙田　計規	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
15	教 諭	藤井　紗耶香	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
16	教 諭	名倉　真依子	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
17	教 諭	齊藤　麻美	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
18	養護教諭	土屋　愛	保健	□□□□□	□年□月	□□□□□
19	主査	清水　美奈	会計・給与	□□□□□	□年□月	□□□□□
				平均年数	1年9月	

臨時的任用職員・会計年度任用職員・学校医

整理番号	職　名	氏　名	事務分担	住　所	勤務年数	摘　要
1	教諭(任)	永田　恵	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
2	教諭(臨)	土屋　葵	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
3	会計年度任用職員	深田　恵美子	事務補助	□□□□□	□年□月	□□□□□
4	学校医	村田　大一郎	内科	□□□□□	□年□月	□□□□□
5	学校医	宇野　明彦	眼科	□□□□□	□年□月	□□□□□
6	学校医	佐藤　隆夫	耳鼻咽喉科	□□□□□	□年□月	□□□□□
7	学校医	向笠　寛	歯科	□□□□□	□年□月	□□□□□
8	薬剤師	萩倉　健介	衛生	□□□□□	□年□月	□□□□□

□□□□□

職　員　調

（令和6年4月1日現在）

愛鷹分校

整理番号	職　名	氏　名	事務分担	住　所	勤務年数	摘　要
1	副校長	稲葉　克枝		□□□□□	□年□月	□□□□□
2	教 諭	渡辺　明彦	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
3	教 諭	遠藤　昌治	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
4	教 諭	浅井　貴久	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
5	教 諭	及川　出穂	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
6	教 諭	山地　康代	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
7	教 諭	杉澤　哲弥	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
8	教 諭	瀬戸　純代	高等部	□□□□□	□年□月	□□□□□
9	教 諭	中澤　昇映	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
10	教 諭	伊賀上　史代	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
11	教 諭	川口　亘	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
12	教 諭	落合　暁子	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
13	教 諭	島村　壮一郎	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
14	教 諭	米山　朋子	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
15	教 諭	野中　悠生	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
16	教 諭	山本　英鈴	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
17	教 諭	遠藤　美祐	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
18	教 諭	野田　次実	高2	□□□□□	□年□月	□□□□□
19	教 諭	下山　琴羽	高1	□□□□□	□年□月	□□□□□
20	養護教諭	三森　明美	保健	□□□□□	□年□月	□□□□□
21	主査	青木　喜子	会計	□□□□□	□年□月	□□□□□
				平均年数	1年7月	

臨時的任用職員・会計年度任用職員・学校医

整理番号	職　名	氏　名	事務分担	住　所	勤務年数	摘　要
1	教諭(任)	的場　有希恵	高3	□□□□□	□年□月	□□□□□
2	会計年度任用職員	山田　愛子	事務補助	□□□□□	□年□月	□□□□□
3	学校医	岡田　隆	内科	□□□□□	□年□月	□□□□□
4	学校医	中ノ森　恒	眼科	□□□□□	□年□月	□□□□□
5	学校医	森　聖哲	耳鼻咽喉科	□□□□□	□年□月	□□□□□
6	学校医	菊田　泰生	歯科	□□□□□	□年□月	□□□□□
7	薬剤師	松永　卓也	衛生	□□□□□	□年□月	□□□□□

□□□□□

職 員 の 年 齢 調

（　令和6年4月1日　現在 ）

年　　齢	人　員	摘　　要
20 歳未満	0　人	
20 歳以上　　30 歳未満	13	
30 歳以上　　40 歳未満	37	
40 歳以上　　50 歳未満	33	
50 歳以上　　56 歳未満	10	
56 歳以上　　61 歳未満	9	
61 歳以上	3	再任用3人
計	105	平均年齢 41.3歳

□□□□□

職 員 の 年 齢 調

（伊豆田方分校　令和6年4月1日　現在 ）

年　　齢	人　員	摘　　要
20 歳未満	0　人	
20 歳以上　　30 歳未満	0	
30 歳以上　　40 歳未満	9	
40 歳以上　　50 歳未満	6	
50 歳以上　　56 歳未満	0	
56 歳以上　　61 歳未満	4	
61 歳以上	0	
計	19	平均年齢 43.2歳

□□□□□

職 員 の 年 齢 調

（愛鷹分校　令和6年4月1日　現在 ）

年　　齢	人　員	摘　　要
20 歳未満	0　人	
20 歳以上　　30 歳未満	3	
30 歳以上　　40 歳未満	8	
40 歳以上　　50 歳未満	4	
50 歳以上　　56 歳未満	3	
56 歳以上　　61 歳未満	3	
61 歳以上	0	
計	21	平均年齢 41.7歳

□□□□□

健　康　管　理

1　令和5年度受診状況

区　　分	内　　容		
	本　　校	伊豆田方分校	愛鷹分校
受診状況	受診者数90人 職員数 106人	受診者数19人 職員数　19人	受診者数19人 職員数 19 人
受　診　率	100.0%		
県平均受診率	100.0%		

(1) 未受診の理由

産休・育休、特休のため

産育休　本校16

特休

2　令和6年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人　　数		
			本　校	伊豆田方分校	愛鷹分校
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人	0人	0人
B１	勤務時間を短縮し、時間外、休日宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	0人	0人	0人
B２		要経過観察	0人	0人	0人
C１	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	0人	2人(2)	1(1)人
C２		要経過観察	0人	2人(2)	0人
D１	平常の勤務でよい。	要治療	10人(10)	0人(0)	3人(3)
D２		要経過観察	24人(24)	5人(5)	7人(7)
D３		医療不要	63人(63)	10人(10)	8人(8)
区分者計			97人(97)	19人(19)	19人(19)
未区分者数			8人	0人	2人
合　　計			105人(105)	19人(19)	21人(21)

(1) 管理区分Ａ～Ｃ２該当者に対する措置状況

C1･C2の該当者全員が再検査を受診。
再検査結果をもとにした再度の主治医の指導区分を受けて、校長が事後指導区分を決定し、配慮事項等の確認を行った。
宿泊学習引率業務等で特に配慮が必要な場合は、主治医に相談し、学校側体制を組み直し、本人の負担を軽減していった。
担任や役職を外し、業務の負担を軽減した

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休　4　人
イ 新規採用　6　人
ウ 自己都合による未受診　0　人
エ その他（特休）　0　人

□□□□□

保管現金有高調

（令和５年度）

（令和６年３月31日現在）

現 金 保 管 者	区　　分	金　　額　　円
静岡県立沼津特別支援学校 校長	駐車料金等継続的資金前渡	2,980円
静岡県立沼津特別支援学校 伊豆田方分校　校長	駐車料金等継続的資金前渡	930円
静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校　校長	駐車料金等継続的資金前渡	1,990円

□□□□□

預　　金　　調

（令和６年３月31日現在）

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 円	摘　　要
スルガ銀行 沼津原町支店	無利息型 普通預金	2530760	沼津特別支援学校 資金前渡者　青木　暁乃	0	給料及び資金前渡金の受領
スルガ銀行 沼津原町支店	無利息型 普通預金	2530759	自振口　沼津特別支援学校 資金前渡者　青木　暁乃	0	社会保険料、電話料等の自動振替
スルガ銀行 沼津原町支店	無利息型 普通預金	465604	沼津特別支援学校 就学奨励費 代理受領者　青木　暁乃	0	就学奨励費の代理受領
残　高　合　計				0	

□□□□□

郵　券　等　受　払　調

（令和６年３月31日現在）

（単位：枚、円）

区　　分	種　類	令和４年度						令和５年度								摘　要
		繰　　越		受　　入		払　　出		繰　　越		受　　入		払　　出		差引現在高		
		枚数	金　額	枚数	金　額	枚数	金　額	枚数	金　額	枚数	金　額	枚数	金　額	枚数	金　額	
郵券	はがき	1	52	0	0	0	0	1	52	0	0	0	0	1	52	連絡用
	往復はがき	6	624	0	0	0	0	6	624	0	0	0	0	6	624	
	120円券	8	960	0	0	0	0	8	960	0	0	8	960	0	0	
	84円券	0	0	0	0	0	0	0	0	2	168	2	168	0	0	
	20円券	0	0	0	0	0	0	0	0	2	40	2	40	0	0	
	10円券	1	10	0	0	0	0	1	10	0	0	1	10	0	0	
	5円券	10	50	0	0	0	0	10	50	0	0	10	50	0	0	
	2円券	10	20	0	0	0	0	10	20	2	4	12	24	0	0	
計			1,716		0		0		1,716		212		1,252		676	
タクシーチケット	原町タクシー	20		0		5		15		0		9		6		児童生徒緊急時輸送用
	伊豆箱根交通	25		0		2		23		0		1		22		
	沼津市個人タクシー協同組合	18		0		0		18		0		0		18		
計		63		0		7		56		0		10		46		

□□□□□

材　料　品　受　払　調

（令和６年３月31日現在）

区分 / 品名	令和４年度						令和５年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
布	0	0円	786	85,461円	786	85,461円	0	0円	1,006	110,700円	1,006	110,700円	0	0円	
木材	0	0円	99	100,322円	99	100,322円	0	0円	152	106,785円	152	106,785円	0	0円	
計	0	0円	885	185,783円	885	185,783円	0	0円	1,158	217,485円	1,158	217,485円	0	0円	

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

（令和４年度）

節　名	会　計	款	項	目	執　行　済　額　（円）		
					令和３年度	令和４年度	左のうち、３年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		55,500,938	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		15,346,848	0
計					65,440,968	70,847,786	0
(14) 工　事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		6,116,000	0
計					7,084,000	6,116,000	0
(17) 備　品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		2,182,356	0
計					3,434,420	2,182,356	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		114,778	0
計					231,262	114,778	0
(21) 補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

（令和５年度）

（令和６年３月31日現在）

節　名	会　計	款	項	目	執　行　済　額　（円）	うち、4年度からの繰越額分
(12)	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	39,836,236	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	13,898,016	0
委託料						
計					53,734,252	0
(14)	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
工　事						
請負費						
計					0	0
(17)	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	1,686,080	0
備　品						
購入費						
計					1,686,080	0
(18)	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	88,613	0
負担金、補助及び交付金						
計					88,613	0
(21)						
補償、補填及び賠償金						
計					0	0

□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

（令和5年度）
（令和6年3月31日現在）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額 当初額	契約金額 変更増減額	契約金額 計	契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
1	(事務関係) 給食調理業務	エコーライフ株式会社	円 45,740,205	円 45,100,000	円 0	円 45,100,000	一般	2.8.1 ～ 5.7.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 小計	円 (40,088,884) 1,252,779 1,252,779 1,252,779 1,252,779 5,011,116	学校給食調理業務	R2 長期
2	給食調理業務	エコーライフ株式会社	55,116,476	44,748,000	0	44,748,000	一般	5.8.1 ～ 8.7.31	5.9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6.1.30 6.2.29 6.3.28 小計	(0) 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 1,243,000 8,701,000	学校給食調理業務	R5 長期
3	スクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	163,674,060	104,443,900	0	104,443,900	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 5.9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.26 6.1.19 6.2.29 6.3.28 小計	(72,052,966) 2,699,244 2,699,244 2,699,244 2,699,244 2,699,244 2,699,244 2,699,244 2,699,244 2,699,244 2,699,244 2,699,244 29,691,684	スクールバスの運行	R3 長期
4	新型コロナウイルス感染症対策に伴うスクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	9,949,170	9,949,170	0	9,949,170	随契	5.4.10 ～ 5.7.25	5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 小計	2,487,290 2,487,290 2,487,290 2,487,300 9,949,170	スクールバスの運行(増発)	随契 2号 (不適)
5	自動ドア保守管理業務	中日本オート･ドア株式会社	22,000	22,000	0	22,000	随契	5.4.1 ～ 6.3.31	5.9.7 6.3.11 小計	11,000 11,000 22,000	自動ドアの保守及び点検	随契 1号 (少額)
6	防鼠防虫業務	株式会社三島美装	99,000	99,000	0	99,000	随契	5.4.4 ～ 6.3.29	5.10.31 小計	42,900 42,900	給食室のゴキブリ、鼠等の駆除防除	随契 1号 (少額)
7	グリストラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬業務	伊豆総業株式会社	156,750	156,750	0	156,750	随契	5.5.22 ～ 6.3.29	5.8.14 6.1.26 小計	52,250 52,250 104,500	グリストラップ清掃汚泥運搬業務	随契 1号 (少額)
8	産業廃棄物(汚泥)処分業務	クリーンサービス株式会社	57,750	57,750	0	57,750	随契	5.5.22 ～ 6.3.29	5.8.31 6.1.18 小計	19,250 19,250 38,500	グリストラップ汚泥処分業務	随契 1号 (少額)
9	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	株式会社イーシーセンター	運搬料(1回あたり)@11,000 処分料(1kgあたり)@44	運搬料(1回あたり)@10,450 処分料(1kgあたり)@44	0	運搬料(1回あたり)@10,450 処分料(1kgあたり)@44	随契	5.7.4 ～ 6.3.29	5.9.20 小計	65,010 65,010	産業廃棄物の収集運搬処分	随契 1号 (少額) 単価契約

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額 当初額	変更増減額	計	契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
10	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	セキトランスシステム株式会社	33,440	33,440	0	33,440	随契	5.8.9 ～ 5.10.31	5.10.19	33,440	業務用冷凍冷蔵庫の収集運搬処分	随契 1号 (少額)
11	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	株式会社ホクセイ	30,932	30,932	0	30,932	随契	5.12.5 ～ 6.3.1	6.1.19	30,932	蛍光灯、乾電池の収集運搬処分	随契 1号 (少額)
12	アスベスト含有調査業務	東海プラント分析センター株式会社	66,000	49,500	△5,500	44,000	随契	5.12.12 ～ 6.1.31	6.2.28	44,000	保温材アスベスト含有調査	随契 1号 (少額)
	事務関係計	12件							小計	53,734,252		
	合計	12件								53,734,252		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額 当初額	変更増減額	計	契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
参考 1	警備業務	セコム株式会社		円 8,316,000	円 0	円 8,316,000		1.10. 1 ～ 6. 9.30			学校施設(本校・愛鷹分校)の機械警備	沼津東
参考 2	警備業務	セコム株式会社		14,256,000	1,208,900	15,464,900		1.10. 1 ～ 6. 9.30			学校施設(伊豆田方分校)の機械警備	三島北
参考 3	消防用設備等保守点検業務	株式会社藤興産		3,960,000	0	3,960,000		5.4.1 ～ 6.3.31			消防用設備の保守点検	沼津工業
参考 4	自家用電気工作物保安業務	橋本電気管理事務所		715,660	0	715,660		5.4.1 ～ 6.3.31			校内電気工作物の保守点検	沼津聴覚特別支援
参考 5	可燃物収集運搬処理業務	有限会社大真商会		運搬料 (1回あたり) 燃やすごみ @26,180 プラスチック製容器包装 @26,180 処分料 (1kgあたり) @6.82	0	運搬料 (1回あたり) 燃やすごみ @26,180 プラスチック製容器包装 @26,180 処分料 (1kgあたり) @6.82		5.4.11 ～ 6.3.31			燃やすごミ、プラスチックゴミの収集運搬処理	単価契約沼津城北
参考 6	プール浄化装置保守点検業務	三友水処理株式会社		208,780	0	208,780		5.4.13 ～ 5.11.30			プール浄化装置保守点検	沼津西
参考 7	沼津地区県立学校建築基準法第12条に基づく定期点検業務	有限会社一級建築士事務所アドス設計室		1,452,000	0	1,452,000		5.7.7 ～ 5.11.30			建築基準法第12条に基づく点検	沼津西
	計	7件										

□□□□□

負　担　金　支　出　調

（令和５年度）
（令和６年３月31日現在）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	令和５年度全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	会則による	学校の管理運営に関する調査及び研究	15,000	5.6.30
2	令和５年度東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	規約による	学校の管理運営に関する調査及び研究	5,000	5.7.28
3	第46回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	第46回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会実行委員長	開催要項による	学校の管理運営に関する調査及び研究	3,000	5.7.31
4	第47回東海地区知的障害教育研究大会参加費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	開催要項による	学校の管理運営に関する調査及び研究	4,000	5.9.14
5	愛鷹分校土地使用貸借にかかる必要費	加藤　久佳	土地使用貸借契約書による	生徒実習用地貸借	61,613	5.10.11
	計	５　件			88,613	

□□□□□

建　築　工　事　調

（令和４年度）

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	受注者	着手完成（予定）年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
				円	円	円	円							
1	教育管理費	校長室他空調更新工事	沼津市 大塚地内	2,398,000	2,046,000	0	2,046,000	随契	エイショウ株式会社	R4.6.2 R4.6.30	2,046,000	事務室・校長室空調機の既設撤去・２台新設	済	令達年月日R4.5.10 最終支払日R4.8.2 随契１号（少額）
2	教育管理費	厨房空調更新工事	沼津市 大塚地内	4,158,000	4,070,000	0	4,070,000	指名	菱友冷熱株式会社	R4.12.28 R5.3.31	4,070,000	厨房空調機の既設撤去・１台新設	済	令達年月日R4.9.9 R4.12.2 最終支払日R5.4.27 入札第３号
		合計	２件		6,116,000	0	6,116,000				6,116,000			
参考	教育管理費	小学部棟外壁修繕他工事	沼津市 大塚地内	78,639,000	69,300,000	5,742,000	75,042,000	一般	株式会社佐藤建設	R4.7.5 R5.2.6	75,042,000	小学部棟・中学部棟・渡廊下棟棟の屋上防水・外壁修繕、渡廊下塗装修繕	－	本庁経理 最終支払日 R5.3.15 建築工事課

建　築　工　事　調

（令和５年度）

（令和６年３月31日現在）

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	受注者	着手完成（予定）年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
				円	円	円	円							
1	教育管理費	プール付属棟プール循環浄化装置更新工事	沼津市 大塚地内	2,915,000	2,739,000	0	2,739,000	指名	三友水処理株式会社	R5.11.10 R6.2.28	0	プールの循環浄化装置更新	－	令達年月日R5.10.6 最終支払日R6.4.10 入札第２号
2	教育管理費	高等部棟給水管更新工事	沼津市 大塚地内	891,000	880,000	0	880,000	随契	株式会社井戸松	R6.1.22 R6.3.21	0	高等部棟の給水管更新	－	令達年月日R6.1.4 最終支払日R6.4.11 随契１号（少額）
		合計	２件		3,619,000	0	3,619,000				0			
参考	教育管理費	受変電設備改修工事	沼津市 大塚地内	56,100,000	54,890,000	△ 7,843,000	47,047,000	一般	富士電設株式会社	R5.7.27 R6.3.18	0	受変電設備改修	済	本庁経理 最終支払日R6.4.11 設備課
参考	教育管理費	埋設管改修工事	沼津市 大塚地内	5,632,000	5,150,200	814,000	5,964,200	指名	永光エンジニアリング株式会社	R6.1.18 R6.3.25	0	給水管取出し工事・公共枡設置工事・既存給排水管切替工事	－	本庁経理 最終支払日 沼津土木事務所

□□□□□

公 有 財 産 調

（令和５年度）

区分	令和５年３月31日 現在		増		減		令和６年３月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,493,748		千円 88,549		千円 7,598		千円 1,574,699	
土　地	18,011.40㎡	1,294,247					18,011.40㎡	1,294,247	
立木竹									
樹　木	20本	130					20本	130	
建　物	3,439.84㎡ 6,745.47㎡	116,659					3,439.84㎡ 6,745.47㎡	116,659	
工作物	89個	82,712	30	88,549	7	7,598	112個	163,663	
普通財産		0						0	
土　地	0㎡	0					0㎡	0	
建　物	0㎡	0					0㎡	0	
工作物	0個	0					0個	0	
公有財産に準ずるもの		504						504	
電話加入権	9件	504					9件	504	

□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

（令和４年度）

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	29年度	30年度	元年度	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	８年度	９年度
長期継続契約	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 ２台の使用料 （契約日）30.4.1	1,495,254		251,524	286,528	326,220	323,657	307,325					
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 １台の使用料 （契約日）31.4.1	386,781			76,793	77,497	77,497	77,497	77,497				
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 １台の使用料 （契約日）2.4.1	392,370				78,474	78,474	78,474	78,474	78,474			
	印刷機賃貸借・使用契約	カラー機 １台の使用料 （契約日）29.8.1	3,240,000	432,000	648,000	648,000	648,000	648,000	216,000					
	印刷機賃貸借・使用契約	カラー機 １台の使用料 （契約日）４.7.1	3,300,000						440,000	660,000	660,000	660,000	660,000	220,000
	給食調理（配膳）業務	給食の調理及び 配膳業務 （契約日）2.8.1	45,100,000				10,022,188	15,033,348	15,033,348	5,011,116				
	スクールバス輸送業務	通学の送迎及び 校外活動の送迎 （契約日）3.4.1	104,443,900					39,662,038	32,390,928	32,390,934				

（令和５年度）

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	29年度	30年度	元年度	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	８年度	９年度
長期継続契約	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 ２台の使用料 （契約日）30.4.1	1,495,254		251,524	286,528	326,220	323,657	307,325					
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 １台の使用料 （契約日）31.4.1	386,781			76,793	77,497	77,497	77,497	77,497				
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 １台の使用料 （契約日）2.4.1	392,370				78,474	78,474	78,474	78,474	78,474			
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 ２台の使用料 （契約日）5.4.1	1,164,240							232,848	232,848	232,848	232,848	232,848
	印刷機賃貸借・使用契約	カラー機 １台の使用料 （契約日）４.7.1	3,300,000						440,000	660,000	660,000	660,000	660,000	220,000
	給食調理（配膳）業務	給食の調理及び 配膳業務 （契約日）2.8.1	45,100,000				10,022,188	15,033,348	15,033,348	5,011,116				
	給食調理（配膳）業務	給食の調理及び 配膳業務 （契約日）5.7.28	44,748,000							9,944,000	14,916,000	14,916,000	4,972,000	
	スクールバス輸送業務	通学の送迎及び 校外活動の送迎 （契約日）3.4.1	104,443,900					39,662,038	32,390,928	32,390,934				

□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

（令和６年３月31日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	事務所建	沼津市大塚823-1	ＲＣ３階		1.00㎡		免除	3.10.31～７．３.31	沼津市長	同報無線個別受信機設置
合計								0			

□□□□□

主　要　備　品　調

（令和６年３月31日現在）

整理番号	区　分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額(円)	摘要
	大・中	小					
1	01-13	調理器具	食品食器洗浄器 外形820×965×1580	毎日(年間185日) 給食食器洗浄	H31. 3	3,024,000	18-005004
2	06-06	加熱装置	コンベクションスチームオーブン 1100×800×1500	毎日(年間185日) 給食調理用	H23. 3	2,992,500	10-007637
3	01-13	食品食器洗浄機	食品食器洗浄機 ＳＤ３４０ＧＳＨ	毎日(年間185日) 給食食器洗浄	R 2. 3	2,629,000	19-009380
4	10-08	その他の芸術用器具	引出式電気窯 ２００００ＤＬＰＬ型	月８日(年間88日) 作業学習用	H21. 3	1,785,000	08-009821
5	06-09	木工用機械	パネルソー ＳＺ３－６０００	月８日(年間88日) 作業学習用	H24. 3	1,690,500	11-020304
6	01-13	その他の厨房機器	食器消毒保管庫 ＭＣＷ－４０ｅ	毎日(年間185日) 食器消毒・保管	R 3.12	1,573,000	21-007091
7	10-08	その他の芸術用器具	電気式陶芸窯 酸化型　横扉開閉引出	月２日(年間16日) 作業学習用	H30. 3	1,479,600	17-004916
8	01-04	移動書庫	移動書庫 オカムラ６連×４連	毎日(年間243日) 教務用書類保管	H 9. 9	1,300,000	97-006093
9	01-99	その他の庁用器具	校旗 西陣日本製　K24本金	年間30日 学校行事用	H25. 3	963,165	12-004337
10	01-04	移動書庫	手動式スライド書架	毎日(年間243日) 教務書類保管	H26. 3	864,570	13-006578
11	10-08	その他の芸術用器具	真空土練機 ステンレス羽根	月12日(年間132日) 作業学習用	H25.10	804,300	13-001920
12	12-01	雑機器	組立倉庫	毎日(年間365日) 防災用	H 6. 3	782,800	93-018935
13	01-07	製本機	製本機	月４日(年間44日) 作業学習用	H25. 3	735,000	12-005662
14	10-08	その他の芸術用器具	真空式循環粘土再生機 ＭＨＳ－２０ＳＷ	月８日(年間88日) 作業学習用	H21. 3	724,500	08-009825
15	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハＣ３Ｂ	毎日(年間243日) 音楽授業用	H 9. 4	711,000	97-000005
16	10-08	その他の芸術用器具	レーザー加工機 ＨＳＧ　ＨＳ－Ｚ４０３０	月４日(年間44日) 作業学習用	H30. 3	685,800	17-004163
17	06-09	木工用機械	自動カンナ マキタ２０３５	月10日(年間104日) 作業学習用	H15.10	609,735	03-003829
18	01-13	冷蔵（凍）庫	冷蔵（凍）庫 ホシザキＨＲＦ－１５０Ｘ	毎日(年間185日) 食材冷蔵・冷凍	H20. 3	601,650	07-007295
19	01-13	食品食器洗浄機	食器消毒保管機	毎日(年間185日) 食器消毒・保管	H10. 3	598,500	97-024705
20	07-01	環境整備用機器	乗用芝刈機	月４日(年間44日) グラウンド周辺整備	H21. 3	595,350	08-009748

□□□□□

特別支援学校における生産物売払調

令和５年度

（令和６年３月 31 日現在）

	主な生産品目
令和５年度	＜手芸品・工作物＞ （本校） ポチ袋　クラフトカード（シンプル、ゴージャス）　祝儀袋　花型コースター　ミニバスケット　ハニーバスケット　商品短冊　　ウッドボックス　ティッシュボックス　ミニベンチ　　長ベンチ　富士山マグネット（大、小）Ａ４バッグ　プチトートバッグ　ビッグバッグ　くるみボタンヘアゴム　大小くるみボタンヘアゴム　巾着袋　ポーチ　ポケットティッシュケース （愛鷹分校） 巾着袋（大、中、小）　布製小物（大、中、小）布製ケース（中）布製バッグ（大、中）チラシ・フライヤー（Ａ４片面モノクロ、Ａ４片面カラー）　輪転機印刷（Ａ４片面） （伊豆田方分校） カッティングボード　木製マグネット　木製キーホルダー　ひのきチップ　富士山箸置き　カップスリーブ　ペンスタンド（大、小）　マルチスタンド ＜農作物・園芸品＞ （本校） ブロッコリー　プチヴェール　落花生　なす　ミニトマト　ピーマン　玉ねぎ　ダイコン （愛鷹分校） ほうれん草　小松菜　にんじん　水菜　なす　ピーマン　かぶ　ミニトマト　スナップエンドウ　じゃがいも　レタス　たまねぎ にんにく （伊豆田方分校） サトイモ　チンゲン菜　ピーマン　ズッキーニ　じゃがいも　キュウリ　オクラ　ミニトマト　インゲン　ダイコン　さつまいも　小松菜　にんじん　ミニ白菜　ほうれん草 ＜陶芸品＞ （本校） 皿（大、中、小）　深皿　さんま皿　豆皿　そばちょこ　湯のみ　コーヒーカップ　フリーカップ（大、小）箸置きセット

<table>
<tr><td></td><td colspan="4">（伊豆田方分校）
小皿（12 ㎝、15 ㎝）</td></tr>
<tr><td></td><td>① 売払金額</td><td>972,750 円</td><td>②前年度との差額</td><td>△28,850 円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和４年度</td><td colspan="4">＜手芸品・工作物＞
（本校）
ストラップ（100 円、200 円、300 円）　ネックストラップ（ガラスブローチ無）　指輪セット　ガラスブローチ　メガネチェーン　ポチ袋　クラフトカード（シンプル、ゴージャス）　祝儀袋　花型コースター　ミニバスケット　ハニーバスケット　マスクケース　メモ帳セット　商品短冊　　封筒　ベンチ（オイル仕上げ）　ウッドボックス　ティッシュボックス　ミニベンチ（オイル仕上げ）　カッティングボード　Ａ４バッグ（絞り染め付き）　プチトートバッグ（絞り染め付き）　ビッグバッグ（絞り染め付き）　くるみボタンヘアゴム　巾着袋
（愛鷹分校）
巾着袋（大、中、小）　布製小物（大、中、小）　ヘアゴム（布）　布製ケース（中）　布製バッグ（大、中）　トートバッグ　チラシ・フライヤー（Ａ４片面モノクロ、Ａ４片面カラー）　輪転機印刷（Ａ４片面）
（伊豆田方分校）
カッティングボード 木製マグネット 木製キーホルダー ひのきチップ
＜農作物・園芸品＞
（本校）
ブロッコリー　プチヴェール　落花生　なす　ミニトマト　ピーマン　玉ねぎ
（愛鷹分校）
ほうれん草　カリフラワー　小松菜　ブロッコリー　大根　白菜　にんじん　水菜　オクラ　なす　ピーマン　かぶ　キャベツ　ミニトマト　インゲン　トウモロコシ　ズッキーニ　スナップエンドウ　じゃがいも　レタス　たまねぎ
（伊豆田方分校）
サトイモ　茎ブロッコリー　チンゲン菜　かぶ　ピーマン　ナス
＜陶芸品＞
（本校）
皿（大、中、小）　深皿　さんま皿　豆皿　そばちょこ　湯のみ　マグカップ　コーヒーカップ　Ｂ級品　フリーカップ（大、小）
（伊豆田方分校）
小皿（12 ㎝、15 ㎝）　小鉢　大皿</td></tr>
<tr><td>① 売払金額</td><td>1,001,600 円</td><td>② 前年度との差額</td><td>75,300 円</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">令和３年度</td><td colspan="4">＜手芸品・工作物＞
（本校）
ミニバスケット　花ゴム　花型コースター　メッセージカード　封筒
クラフトカード　クラフトカード（シンプル・ゴージャス）　商品短冊
祝儀袋　ポチ袋　マスクケース　ビーズストラップ　ネックストラップ（ガラスブローチ無）　ガラスペンダント　ガラスブローチ　コースターセット　ビッグバッグ　プチトートバッグ　Ａ４バッグ　カッティングボード　ティッシュボックス　ウッドボックス　ミニベンチ（オイル仕上げ）　ベンチ（オイル仕上げ）　指輪セット　ティッシュボックス　くるみボタンヘアゴム　ハニーバスケット
（伊豆田方分校）
ひのきチップ　カッティングボード
（愛鷹分校）
チラシ・フライヤー（カラー　モノクロ）　名刺　輪転機印刷物
巾着袋（小・中・大）　布製ケース（中）　布製小物（小・中・大）
布製バッグ（中）　マスク　ヘアゴム　おくすり手帳　防災頭巾カバー
メモ帳セット
＜農作物・園芸品＞
（本校）
ピーマン　ミニトマト　たまねぎ　大根　さつまいも　ブロッコリー
プチヴェール
（伊豆田方分校）
なす　茎カリフラワー　きゅうり　さといも　ピーマン　チンゲン菜
茎ブロッコリー　大根　カブ
（愛鷹分校）
カブ　ズッキーニ　ホウレンソウ　ピーマン　水菜　スナップエンドウ　オクラ　ニンニク　キャベツ　ごぼう　なす　ブロッコリー
ミニトマト　白菜　大根　にんじん　カリフラワー　小松菜
チンゲン菜　きゅうり　じゃがいも　たまねぎ　ロマネスコ
＜陶芸品＞
（本校）
フリーカップ小・大　マグカップ　コーヒーカップ　そばちょこ
皿（小・中・大）　深皿　湯のみ　さんま皿
（伊豆田方分校）
小皿（12cm 15cm）　皿（中・大）　美人花瓶　筒花瓶　爪楊枝立て</td></tr>
<tr><td>① 売払金額</td><td>926,300 円</td><td>② 前年度との差額</td><td>△91,600 円</td></tr>
</table>